

# 開放制における「サンドイッチ方式による幼稚園・小学校教育実習」並びに「2年次実施方式による特別支援学校教育実習」の現状と課題

渡部 昭男 (2008 年度学科長 akiowtnb@rstu.jp)

## I. 経緯と課題

2004 年度から学年進行で改組が進んだ地域学部 (1 学年定員 190 名) では、それまでの目的養成ではなく、いわゆる開放制の教員養成を行っている。改組に伴って、地域教育学科 (1 学年定員 50 名) は幼稚園・小学校及び特別支援学校教諭免許状に関して課程認定を受けることになり、教育実習の仕組みが大きく変化した。すなわち、地域教育学科では、①教員免許状の取得希望者は幼稚園または小学校を主免許状として選択する、②基礎免許状の他にも副免許状 (特別支援学校を含む) が取得できる、③保育士に関しても学科内の保育士資格取得コース (学科入学後に希望者から選考/1 学年定員 10 名) に属するかまたは自身で国家試験を受けることで取得できる、というようになった (免許状取得が義務づけではない開放制であり、全く取得しないことも可能である)。要するに、私学を含めて全国的に幾つかみられるところの、開放制の「幼児児童教育学科 (保育及び特別支援教育を含む)」のイメージである。こうしたコンセプトを有する国立校は少なく、そのユニークな挑戦の成否が全国的にも注目され、問われている。

開放制の教員養成において、苦慮するのが教育実習の扱いである。すなわち、15 回の授業回数を確保するという基本方針の下で、一部の希望者のみが出かける教育実習について従前のように他科目の開講時期に重ねた「二重履修の特例扱い」で凌ぐことはできない。そこで、大学の夏季休業中で附属校園が開かれている 9 月に集中して実習時期を設定することになる。学士号を授与する上で位置づけの大きい卒業論文の作成や就職活動・公務員試験などを考慮して 4 年次を避け、主免許状にかかわる幼稚園・小学校実習を 3 年次 5 月 & 9 月 (各 2 週間) に、主免許状に当たらない特別支援学校実習を 2 年次 9 月 (3 週間) に位置づけた (4 年次 6 月の時期も選択可能)。また、幼稚園・小学校・中学校を副免許状として取得する場合は、3 年次 11 月 (2 週間) にいずれか 1 校種の副免許教育実習が許されている。なお、保育士資格取得コースの学生は 2 年次から別途に保育実習<sup>1</sup>があるが、日程が重複しなければ希望の教育実習も受講できる。

このことにより、幼稚園・小学校に関しては「大学での学習 A—基礎実習 (3 年次 5 月) —大学での学習 B—応用実習 (3 年次 9 月) —大学での学習 C」という仕組み=「サンドイッチ方式による幼稚園・小学校教育実習」 (以下、「サンド

イッチ方式」と略す)、特別支援学校に関しては「特別支援学校実習 (2 年次) —幼稚園・小学校実習 (3 年次)」という仕組み=「2 年次実施方式による特別支援学校教育実習」 (以下、「2 年次実施方式」と略す) といった本学科独特の 2 つの方式が導入された。

2008 年度において「サンドイッチ方式」「2 年次実施方式」とともに実施 3 年目<sup>2</sup>を迎えることから、我々は 2008 年度の学科運営方針・努力目標の一つに「学科・専攻教育の充実に向けたカリキュラムの見直し」を掲げ、その一環として両実習方式の現状と課題を明らかにするために調査研究を行った。

なお、中学校・高等学校に関しては他学科・他学部で課程認定<sup>3</sup>を受けており、「開放制のもとでの全学体制による教員養成」が鳥取大学の大きな特色となっている。主免許状としての中学校教育実習については地域教育学科はほとんど関わりを持たないことから、本学科による今回の調査からは除外した。今後、全学の教育実習委員会などが主導して、追加実施することが望まれる。

## II. 調査の対象と方法

「サンドイッチ方式」に関しては、2008 年度の 3 年次学生全員を対象に、①「地域教育学科 3 年生の基礎実習に関するアンケート」 (2008 年 6 月実施) 及び②「地域教育学科 3 年生の応用実習に関するアンケート」 (同 10 月実施) を行った。

「2 年次実施方式」に関しては、2008 年度の特別支援学校教育実習を受けた 2 年次学生を対象に、③「地域教育学科 2 年生の特別支援学校実習に関するアンケート」 (同 9 月実施) を行った。いずれも、該当学年が受講する講義時に調査用紙 (巻末に収録) を配布し、回答記入後に関連教員に提出するか、または回収箱へ投函してもらった。回収状況は、各アンケートの結果の項で述べる。

<sup>2</sup> 地域教育学科 1 期生が 2 年次の 2006 年度 9 月には、まだ旧学部の 3 年次生が 9 月に養護学校実習を行っていたために、特別支援学校において「2 年次実施方式」が運用されたのは 2 期生が 2 年次となった 2007 年度からである。

<sup>3</sup> 鳥取大学では、地域学部地域政策学科が「社会 (中学校)、地理・歴史 (高校)、公民 (高校)」、同地域文化学科が「国語 (中学校・高校)、英語 (中学校・高校)」、同地域環境学科が「理科 (中学校・高校)」、農学部が「理科 (中学校・高校)、技術 (中学校)、農業 (高校)、情報 (高校)」、工学部が「数学 (中学校・高校)、理科 (中学校・高校)、工業 (高校)、情報 (高校)」の課程認定を受けている。こうしたことから、免許更新制への対応も大学総出の全学体制で進められている。

<sup>1</sup> 保育実習は、「保育実習 I (20 日 = [2 年次 8 月下旬 ~ 9 月上旬 = 保育所] + [2 年次 2 月下旬 ~ 3 月上旬 = 施設]) 及び「保育実習 II [保育所] または III [施設] (10 日) [3 年次 2 月下旬 ~ 3 月中旬]」で設定されている。

### Ⅲ. 結果の概要

#### ① 「基礎実習アンケート」

##### ①-A：幼稚園

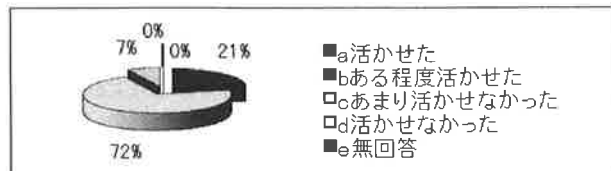
##### I：免許・資格に関する基本情報

幼稚園実習履修者16名中、回答者は14名（88%）であった。その内、14名全員が保育士資格の取得を予定しており（コース所属9、国家試験5）、教員免許としては他に小学校を3名、特別支援学校を11名が希望していた。

##### Ⅱ：基礎実習と大学カリキュラムとの関連

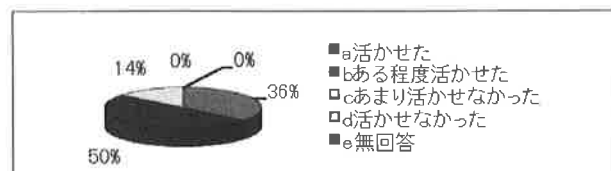
3年次前期までの大学での学び（「サンドイッチ方式」でいう「大学での学習A」）が基礎実習にどのように生かされたかを問うた。

##### 3-1 教職に関する科目（「人間と教育」、教育学、心理学など）



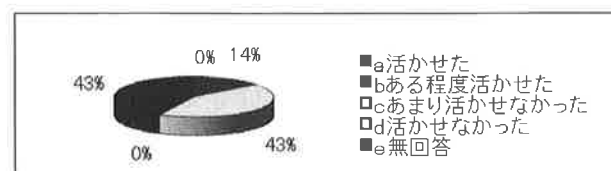
「あまり活かせなかった」「活かせなかった」が79%であった。自由記述は、b-「教育の心得として活かした」「教育をめぐる現状・問題等」、c-「実習中、科目を意識して思い出すことはなかった」「人物や思想などはあまり考えて実習できなかった」「学んだことと実際との差がありすぎた」、d-「現場の幼稚園で通用するようなことを講義の中でしていない」であった。

##### 3-2 幼稚園教育に関する科目



「活かした」「ある程度活かした」が86%であった。自由記述は、a-「環境の保育等」「手遊び、子どもの発達」「子どもの姿や指導要領等」「子どもにとって教師はどのような存在であるか」、b-「幼児の現状などを授業などでしていたし、保育関連の資料も見ても討論していたから」「保育と幼稚園の区別が分からず授業を受けていたが人間関係の保育の具体的な話などは勉強になった」、c-「附属は特別な保育をしているから」であった。

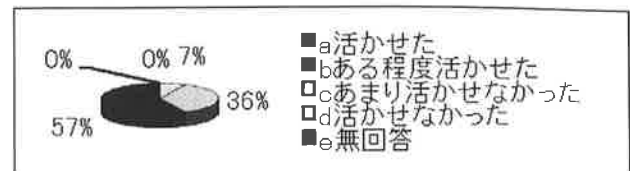
##### 3-3 小学校教育に関する科目



「あまり活かせなかった」及び「無回答」が各43%であった。自由記述は、b-「指導案の書き方等少し参考にしました」、

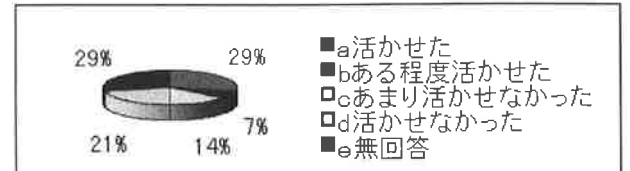
c-「就学前の5歳児において少し活かした」「音楽などは少し活かした」であった。

##### 3-4 中学校（高校）教育に関する科目



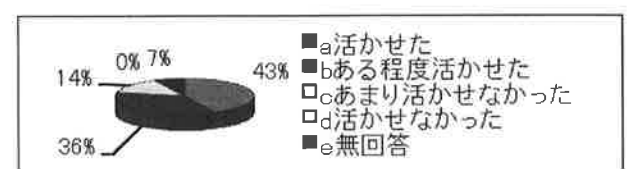
「あまり活かせなかった」「活かせなかった」が43%、「無回答」が57%であった。履修していない者が多かった。

##### 3-5 特別支援教育に関する科目



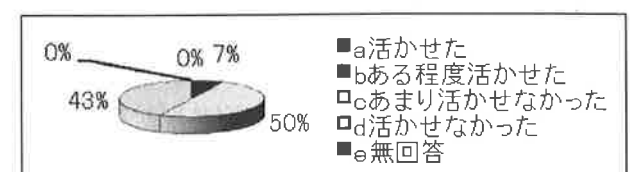
「活かした」「ある程度活かした」が36%、「あまり活かせなかった」「活かせなかった」が35%であった。自由記述は、a-「障害について」「落ち着きのない子どもや目立つ子どもの関わり」「子どもの内面理解や実態把握」「特別支援と保育実践とは似たところがある」、d-「気になる子はいったが障害と断定する子どもはいなかったから」「集団生活の中で逆に気になってしまう子どもを何か診断がついているのかなどと考えすぎてしまう」があった。

##### 3-6 保育士資格に関する科目



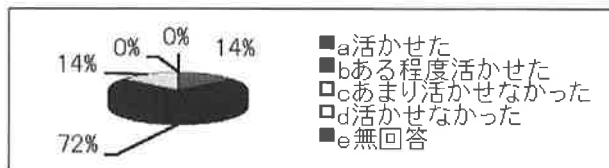
「活かした」「ある程度活かした」が79%であった。自由記述は、a-「基本的な保育の仕方など活かせることがたくさんあった」「保育実習に行ったことがとても大きく日誌を書く際子ども達をどう見ていくか活かした」「子どもの発達・環境を通して保育すること等」「子どもの年齢による発達課題など」「0歳児の姿などある程度イメージできていたのは役立った」「手遊び、保育所実習、絵本についてなどいろいろ」、b-「指導案の書き方」「幼稚園教育要領と保育指針を比べることで幼稚園の特性を掴めた」「この年齢ならある程度このような様子というイメージを持つことができていた」「『表現の保育』などで人前に立って分かり易く話すことなどが活かされた」、c-「活かしたかどうかは分からないが、子どもの怪我の手当をすることが多かった（小児保健）」であった。

##### 3-7 地域学・地域教育学に関する科目（地域教育学入門、地域教育計画論など）



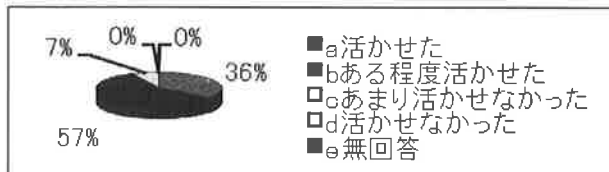
「あまり活かせなかった」「活かせなかった」が93%であった。自由記述は、b-「保護者と共同の子育て支援について」、c-「実習中に地域について感じることはあまりなかったので活かされたかどうかは分からないが、2年後期の計画論は実習には繋がらないが地域を知れる授業ではあったと思う」、d-「関係ない授業が多い」「幼稚園実習で考えなければいけないことと全く授業内容が重なっていない」であった。

### 3-8 少人数でのゼミナール（大学入門ゼミ、総合演習、地域教育ゼミなど）



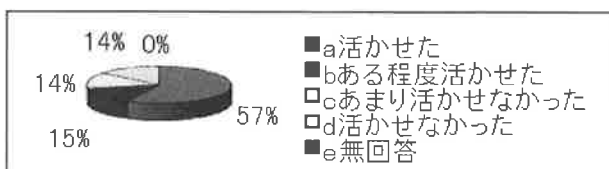
「活かせた」「ある程度活かせた」が86%であった。自由記述は、a-「色々な人の意見を聞けたので自分の視野や考え方が深まった」、b-「本・声の使い方、発達過程等」「ゼミの中で昨年の幼稚園実習の概要などをちょこちょこ聞いていたから」「保育ゼミ」であった。

### 3-9 教育実習の事前指導（「教育実践の基礎」や実習オリエンテーションなど）



「活かせた」「ある程度活かせた」が93%であった。自由記述は、a-「実習生であろうが子どもにとっては教師だということ」「オリエンテーションで園の保育や実習の方針を示してくださったこと」「オリエンテーションは為になったし、具体的にものを言ってくれたので分かり易かった」「実習指導」、b-「事前の注意事項など」「オリエンテーションで園の大体的様子や実習の仕組みなどを知れたし、やることなども覚悟できた」「オリエンテーションでピアノの楽譜をもらったり、行事予定を知れたのは参考になった／でもその日のその日で動きが違い実習が始まるまで分からないこともあって不安だった」「オリエンテーションはとても役に立ったが『教育実践の基礎』は実習先によって少人数でやった方がためになったと思う」「実習の手引にあった語句の使い方が参考になった」「不安な部分が少なくなった」「オリエンテーションで実習について詳しく聞けた」、c-「もっと実習について具体的なものが良かった」であった。

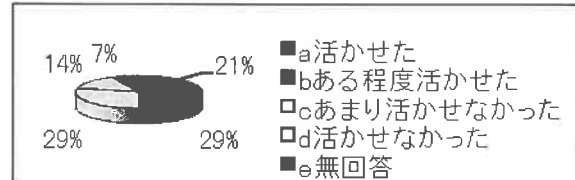
### 3-10 基礎実習の前に出かけた介護等体験、保育実習、特別支援学校実習など



「活かせた」「ある程度活かせた」が72%であった。自由記

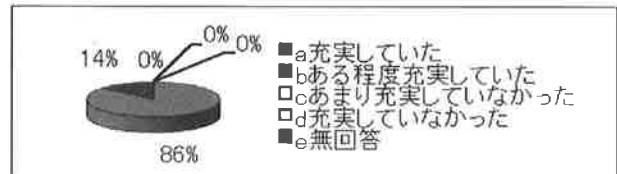
述は、a-「手遊びなど」「日誌を書いていた、一度経験しているのは大きいと思う」「保育園に実習に行ったときの保育士の動きなど」「保育実習で子どもと関わった経験」「実習の基本的なことが分かっている状態だったので安心して実習が受けられた」「保育実習をしていたので子どもとの関わり方が分かっていた」「指導案の書き方、子どもの実態」、b-「子どもとの関わり方がある程度分かったり、実習への課題などを立てることができた」「子どもとの接し方等は少し活かせたが、日案等についてはあまり活かせなかった」、c-「保育園と幼稚園実習は全く異なっていたのであまり活かせなかった」「保育園と幼稚園では様子が別物だったのであまり活かせなかった」、d-「行っていない」であった。

### 3-11 カリキュラム外で行われる子ども会等のボランティア活動など



「活かせた」「ある程度活かせた」が50%、「あまり活かせなかった」「活かせなかった」が43%であった。自由記述は、a-「学習支援では子どもとの関わりがし易かった」「青少年育成ボランティア団体に所属していて小学生を中心とした子ども達と交流があるし、そこで行っているゲームなどを実習に取り入れることができた」「子どもがどのような遊びを楽しんでいるのかを事前に知っていたこと」、b-「子どもと関わり慣れることができていた」「中学生相手のボランティアだったので幼稚園ではあまり活かせなかった」、c-「校種が違うため」、d-「あまり参加したことがない」であった。

### 4-1 基礎実習の率直な感想を述べなさい



全員が「充実していた」「ある程度充実していた」と回答した。自由記述は、a-「2週間という短い間でしたが、たくさんのことをさせていただいて、勉強になった」「先生を見たりアドバイスをいただきながら自分でいろいろすることができたので、とても充実していた」「これ以上ないというくらい頑張ったと思う／睡眠時間が取れなくてきつかった／実践の難しさが分かった」「大学では学べない多くのことを学ぶことができた／子どものトラブル場面での教師の対応や子どもとどのように関わっていけばいいのかとういことを具体的に知ることができた」「同じ組の実習生と協力して進めることができた／話し合いをしたり、先生方のアドバイスを頂くことで保育を考えることができた／記録をもっと次に活かせるような形で書いて行ければよかったと思う」「普段の大学生活と生活の濃さが何倍も違ったものとなった／机上ではできないようなたくさんの発見や学びを実習中たくさんすることができ

た」「先生方から具体的なアドバイスや反省点を言ってもらえたのでとても勉強になる毎日でした／責任実習・部分実習を多く任せていただけたのでよかった」「勉強になったことは本当に多くあったが、今まで行った実習と様子が全く異なっていた部分が多かったので戸惑ってしまった／それに、適応するのにとても時間が掛かってしまった」「子ども達と一緒に遊んだりすることでこういう仕事ができたら楽しいだろうと思った／それはまだまだ保育者としての気持ちではない気がするし『ダメだな』と思ったこともたくさんあったけれど実習はすごく充実したものだったと思う」「毎日乗り切ることが必要だった／考えることもたくさんあるし、先生方のご指導を次の日からの保育に活かすため考える時間も多きを費やしたから充実していた」「毎日の日誌や個人記録等準備することやしなければいけないことがとても多く2週間はとても早く過ぎた／先生から子ども達から沢山の事を学んだ」「新しく学ぶことがとても多くあった」、b-「先生方の仲があまりよくなって困った」(注：あくまでも個人的な主観の記載)であった。

#### 4-2 今後の大学での学習や応用実習に向けた「貴方の課題」は何ですか。

##### IV：改善課題や要望

ともに、考察で述べる。

#### ①-B：小学校

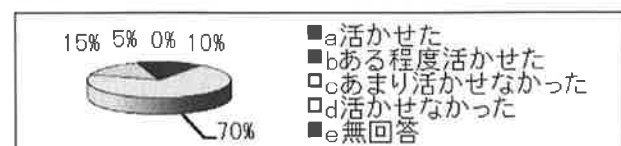
##### I：免許・資格に関する基本情報

小学校実習履修者32名中、回答者は20名(63%)であった。他の免許は、特別支援学校を16名、幼稚園を9名、中学校を5名(国語2、英語3)、高校を4名(国語1、英語3)が希望していた。

##### Ⅲ：基礎実習と大学カリキュラムとの関連

幼稚園調査と同様に、3年次前期までの「大学での学習A」が基礎実習にどのように生かされたかを問うた。

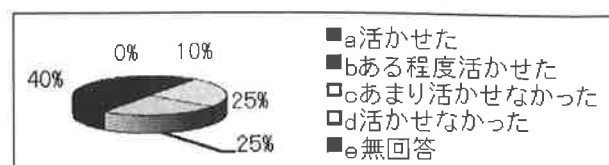
#### 3-1 教職に関する科目(「人間と教育」、教育学、心理学など)



「あまり活かせなかった」「活かせなかった」が85%であった。自由記述は、b-「教育・教師に対しての自分の考えをまとめながら取り組めた」、c-「目の前の子ども達と接することで手一杯だった」「舞い上がっていた為」「理論を学ぶことも大切だがVTRなどで実際の教育現場から理論を拾い上げるともっと分かり易く活かしたと思う」「実践の場で個に対応していく時、理論は目に見えて役立つものではなかった／どこかで無意識に役に立っていたのかもしれない」「実際には使うこともなかった」「心理学の授業は本当に活かせなかった」であった。

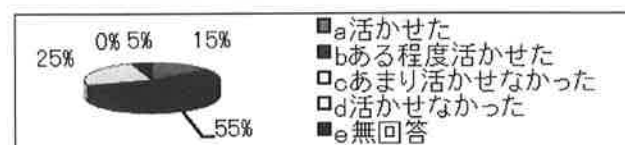
#### 3-2 幼稚園教育に関する科目

「あまり活かせなかった」「活かせなかった」が50%、「無回答」が40%であった。自由記述は、b-『ことばの保育』で



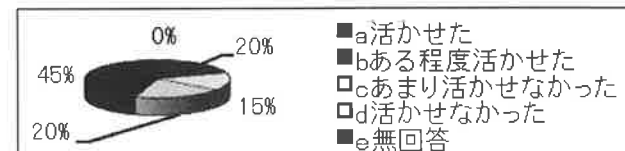
は子どもの言語発達に触れていた子どもの実態を捉えやすかった、c-「高学年の児童と過ごしていたので活かす機会が少なかった」「発達や友だちとの関わりの場面で少し参考になった」、d-「幼稚園-小学校の流れがあると分かっているが6年生だったのであまり考えることがなかった」であった。

#### 3-3 小学校教育に関する科目



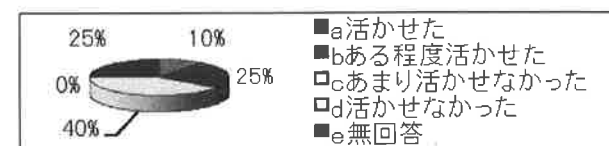
「活かした」「ある程度活かした」が70%であった。自由記述は、a-「教材研究や指導案づくり、着目するポイントなど」「算数・数学学習指導論」は実践的科目であり、子どもの考え方や授業構成に役立った、b-「教科指導に活かした」「指導案の書き方、授業で注意すべき点」「目標や指導案の書き方、授業づくりなどに関して音楽・算数・国語の科目は役立った」「特に算数教育の分野の教材研究の仕方など」「特に数学関係の先生が頑張っておられ、良い講義をして下さっている」、c-「指導案を書く機会が少なかった」「子どもにどう対応するか考えるばかりでその時に思い出せなかった」「実践的な話で自分も授業に取り入れられた部分があった」であった。

#### 3-4 中学校(高校)教育に関する科目



「無回答」が45%、「あまり活かせなかった」「活かせなかった」が35%であった。自由記述は、b-「授業をするのに中学校の免許向けの科目が役立った」「教材研究や指導案づくりなど」「指導案の書き方、授業づくり」「『国語学習指導分析』は実践的科目であり、授業の組み立て方を学ぶことができてよかった」、c-「英語の授業の時は子ども達の学びについて視点を持って参観できた」「専門分野は科目としてはなかったが、朝学習を見る時に少し参考になった」であった。

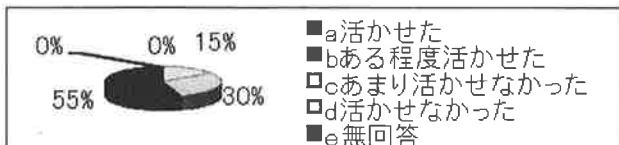
#### 3-5 特別支援教育に関する科目



「あまり活かせなかった」が40%であった。自由記述は、a-「子どもの様子をじっくり見る態度や子どもの考えていることについて考察する姿勢が培えたと思う」「個々人の障害特性や授業の作り方など、ゲストの方のお話しも参考になった」、b-「知識がないと実践、対応できないと思う」「発達等考えた」「指導案の書き方が事前におさえられてよかった」「子どもを

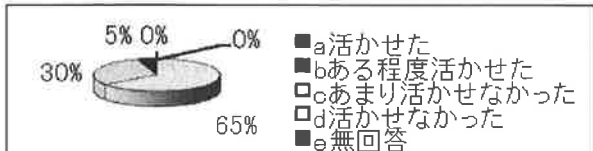
どのように見ればいいのか少し参考になった」、c-「必要とされている支援の内容が教科に関することが多かった」「あまり活かす面がなかった」であった。

### 3-6 保育士資格に関する科目



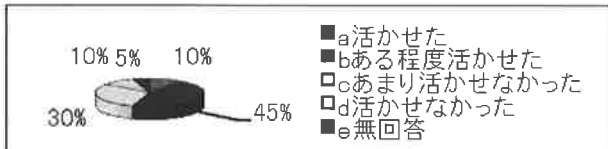
「無回答」が55%、「あまり活かせなかった」「活かせなかった」が45%であった。自由記述は、c-「あまり単位を取っていないから」、d-「あまり活かす面がなかった」「けがや子どもの様子をなかなか具体的に見られなかった」であった。

### 3-7 地域学・地域教育学に関する科目（地域教育学入門、地域教育計画論など）



「あまり活かせなかった」「活かせなかった」が95%であった。自由記述は、c-「なかなか学校と地域の両方から考えることができなかった」「教育については授業でカバー出来ているが、それを実践するというつなぐ講義がないので活かしていきにくいように思う」「授業実践に関する内容ではなかった」「制度などはとても大きな問題なので教育実習では考えることはなかった」、d-「地域学と言うが、やっている内容は教育なので地域を学ぶ必要性が全く感じられない／地域学は、はっきり言って意味がわからない／教育学に戻すべきでは（学部を）」「地域教育計画論をする意味すら分からないくらい」であった。

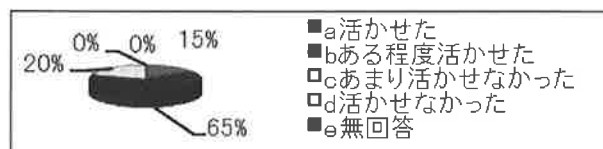
### 3-8 少人数でのゼミナール（大学入門ゼミ、総合演習、地域教育ゼミなど）



「活かした」「ある程度活かした」が55%であった。自由記述は、a-「実際の授業を見学することがあり、参考になった／人前で話すということに慣れた」「地域教育ゼミでの授業参観は非常に参考になった」、b-「地域教育ゼミは活かせることが多かったのですが、総合演習など全く関係ない内容だったように思います／総合演習の授業の意図がわかりづらい」「クラスでの反省や授業検討など」「授業を見る視点」「授業参観でどのような視点で見ればいいのか」「学生的心声を授業に直に反映させて進める事が出来るので役立つ」「地域教育ゼミの附小での授業観察はとても役に立った／学校・授業を具体的にイメージする事が出来た」「地域教育ゼミⅡで小中学校の授業が見られたことがすごく活きた」であった。

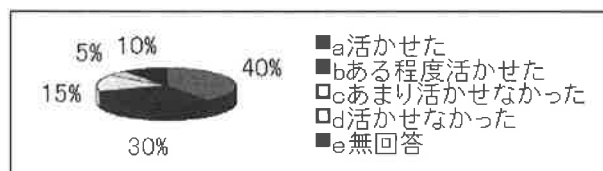
### 3-9 教育実習の事前指導（「教育実践の基礎」や実習オリエンテーションなど）

「活かした」「ある程度活かした」が80%であった。自由記



述は、a-「授業の進め方、子どもとの関わり方」「実習における態度や心構えなど」、b-「気が引き締まった」「注意すべきこと、教師としての立場などが分かった」「覚悟を持って臨めた」「注意すべき点や大切な点を考えながら実習できた」「現場の声を率直に聞いたことは良かったし、対策立てが出来てよかった」「指導案の書き方など役に立ったが、当たり前のことを何度も言われるのは必要ないと思った（実習中の注意事項等）」「実習への心構え、不安が減った」「心構えをすることが出来た」「教育実習に対する自分の意識を高めることが出来た」、c-「現状も知りたいが、授業や指導案について具体的に学べたかった」「オリエンテーションで緊張感を持ったことは確か」であった。

### 3-10 基礎実習の前に出かけた介護等体験、保育実習、特別支援学校実習など



「活かした」「ある程度活かした」が70%であった。自由記述は、a-「気持ちの持ち様、子どもを見ること、支援を考えることなどに役立った」「クラスとしてまた個人として子どもをとらえる大切さが分かった／指導案の書き方も熱心に指導していただいた」「実習の雰囲気や慣れ、生活習慣の見直しなど」「指導案の書き方、実習の心得、子どもを見る視点」「指導案の作成や日誌など、一度経験していたのでスムーズに出来た」「社会人としての態度」「特別支援実習で指導案に触れていたので小学校でも指導案を書き易かった」「特別支援の方が厳しかった／基礎実習は楽だった」、b-「子どもとの関わり方など違う対応もあるが経験していることが自信になった」「実習に向かう姿勢など」「指導案の書き方など」「どのように児童と距離を縮めていけばいいかという点で経験が活かされた」、c-「経験としてはよかったが、直接は活かせなかったと思う」、d-「介護等体験に行けてない」であった。

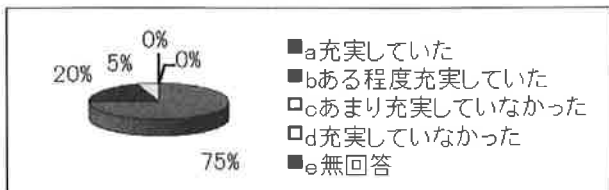
### 3-11 カリキュラム外で行われる子ども会等のボランティア活動など



「活かした」「ある程度活かした」が65%であった。自由記述は、a-「子どもとの関わりに余裕ができ、よく見たり関わることが出来る」「休み時間などに子どもに接する時、一番は子どもを叱ったり、注意するタイミングや態度など」、b-「関わり方（目線を合わせるというような）」「学生ボランティア

他で培った経験によって、子どもや学習に慣れた面もある」  
「子どもとの関わり方、子どもの気持ちを察するなど」「子どもとの接し方、緊張が和らぐ」「子どもの理解に繋がった」「子どもの分からない部分がある程度分かることが出来た」「実際に子ども達とふれ合ったという経験は子どもとの関係づくりに役立った」「机間指導」であった。

#### 4-1 基礎実習の率直な感想を述べなさい



1名を除く19名が「充実していた」「ある程度充実していた」と回答した。自由記述は、a-「あらゆる場面で自分がすべきことを考えながら動くようになった／子どもとの関わりを授業に活かし、一体となって授業をする楽しさを実感する事ができた」「今までの大学での学びを活かす(試す)事が出来て良かったと思う／指導教官とも密に話をする事ができ、より児童の実態や姿を追うことが出来たと思う／とりわけ、教科教育において子どもの学びに迫る事ができ、収穫の多い実習となった」「観察を通してたくさん学ものがあつた」「教員とはどういうものか、子どもと接するにはどうするか、大学では学べないものが学べた」「子ども達の様々な表情を見ることができて、毎日忙しかつたけどとても楽しかった／絶対に先生になる！という気持ちを再確認できた」「実際に授業をすることで、たくさん学べたし、教師と児童のけじめなど教師として児童とどう接すればいいかなど、少しずつだが分かった」「児童を観察することで児童の実態を知り、どのような指導をすればよいのか考えることができた／とても充実した2週間であった」「授業・休憩・給食・掃除と、場面場面で様々な子ども達の姿が見られた／その都度、教師は対応していかなければならないと強く感じた」「授業実践を1時間させてもらって応用実習への課題が見えた／2週間子ども達と一緒に過ごす中で子ども達の様々な姿が見えてきた」「すばらしい人格の先生に指導して頂き、教師という職業にとっても魅力を感じた」「担任の先生がとても良い指導をしてくださった(小学校は)／1回した授業から課題も見え、学ぶ姿勢に変化があつた」「担任の先生が熱心に指導して下さった／居眠り等の非常識な行動をとる学生がおり、注意しても直らず実習生全体が困った／とても楽しかった」、b-「同じクラスの教生にも恵まれ、お互いに協力しながら実習を行うことが出来た／授業研究の未熟さも目立ったが教壇に立つということのすばらしさを体験できた」「実際に子どもとふれ合うことでたくさんの事を学ぶことが出来た／しかし、子ども達への指導などで迷うことがたくさんあつた」「楽しかった／子どもに対するしつけがすごかった」、c-「授業実践において、指導案等についての指導が担任の先生からしてもらえなかった／体調管理が十分に出来なかった／思春期である児童への対応方法の知識が少なかった」であった。

#### 4-2 今後の大学での学習や応用実習に向けた「貴方の課

題」は何ですか。

#### IV：改善課題や要望

ともに、考察で述べる。

#### ①—C：未履修

未履修者としては3名の回答があつた(内1名は保育士資格+教員免許状を希望、2名は資格・免許の希望なし)。大学カリキュラムへの要望は、「心理学のもとと詳しい授業。歴史・概要とか」「専門教科を卒業単位として認めて欲しい」「1年の時に専門科目がもう少しあつても良い」であった。

#### ②「応用実習アンケート」

#### ②—A：幼稚園

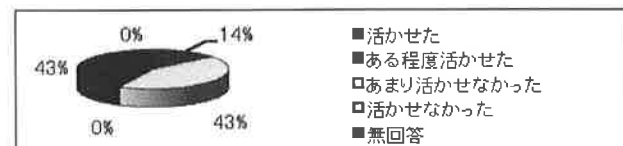
##### I：免許・資格に関する基本情報

幼稚園実習履修者16名中、回答者は7名(44%)であつた。他には、特別支援学校を4名が、小学校を1名が希望していた。保育士資格は7名全員が希望していた。

##### Ⅲ：応用実習と大学カリキュラムとの関連

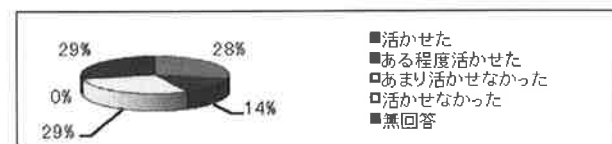
ここでは、基礎実習と応用実習とに挟まれた「大学での学習B」すなわち「3年生前期に受講した科目での学習」に限定して、応用実習にどの程度活かされたかを尋ねた。そのため、未履修による「無回答」及び自由記述欄の未記入が「基礎実習アンケート」よりも格段に多かった。従って、この項の扱いは参考程度にとどめる。

##### 3-1 教職に関する科目



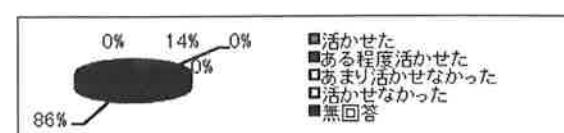
「無回答」が43%、「あまり活かせなかった」が43%であった。自由記述はなかった。

##### 3-2 幼稚園教育に関する科目



「活かした」「ある程度活かした」が42%であつた。自由記述は、c-「領域を中心としていたから」であつた。

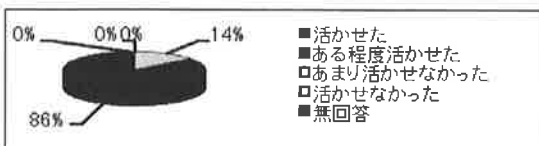
##### 3-3 小学校教育に関する科目



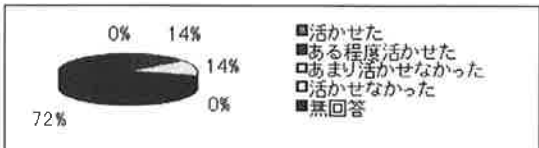
「無回答」が86%、「ある程度活かした」が14%であつた。自由記述はなかった。

##### 3-4 中学校(高校)教育に関する科目

「無回答」が86%、「活かせなかった」が14%であつた。自由記述はなかった。

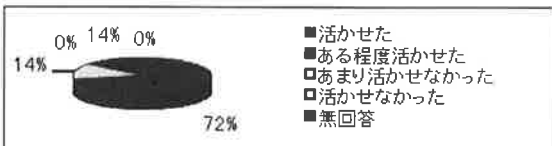


### 3-5 特別支援教育に関する科目



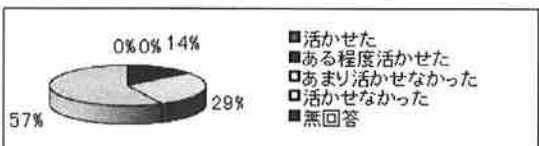
「無回答」が72%、「ある程度活かせた」と「あまり活かせなかった」が各14%であった。自由記述はなかった。

### 3-6 保育士資格に関する科目



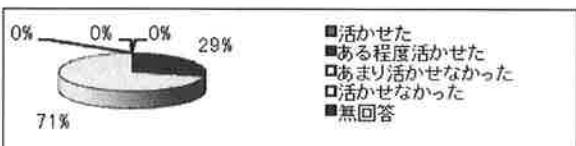
「ある程度活かせた」が72%であった。自由記述は、b-「からだ気づき入門他」「実習クラスの年齢発達」であった。

### 3-7 地域学・地域教育学に関する科目



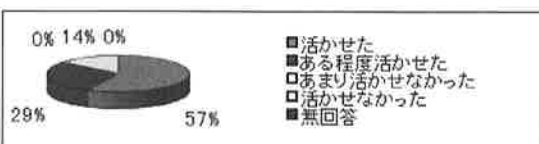
「あまり活かせなかった」「活かせなかった」が86%であった。自由記述はなかった。

### 3-8 地域教育ゼミ



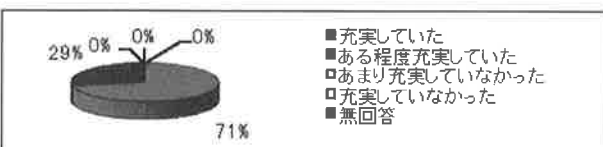
「あまり活かせなかった」が71%であった。自由記述は、b-「子育て期の親のことを考えること」、c-「対象が親・保育所だったので直接は活かせなかった」であった。

### 3-9 教育実習の事前指導（「教育実践の基礎」や実習オリエンテーションなど）



「活かせた」「ある程度活かせた」が86%であった。自由記述は、a-「先生方のお話を聞いたり出来たから」「実習オリエンテーションで貰った用紙や実習の手引きは参考にして書いたりした」、b-「園の先生が基礎実習の反省でお話して下さって、応用実習に向けて反省が出来た」、d-「実践的ではない」であった。

### 4-1 応用実習の率直な感想を述べなさい



全員が「充実していた」「ある程度充実していた」と回答していた。自由記述は、a-「基礎よりも周りを見ることが出来たと思う」「基礎の時はまだまだだったなと思うくらい応用は充実していたなと思う」であった。

### 4-2 基礎実習と応用実習とはどのように繋がりましたか。

貴方自身において、特に「応用実習に向けて準備したこと」

「基礎⇒応用へと何か発展・深化したこと」があれば具体的に述べて下さい。

4-3 実習を終えて、基礎実習・応用実習の在り方および両者の繋がりについて、良かった点や今後さらに改善を要する点、改善への提案などがあれば具体的に述べて下さい。

4-4 今後の大学での「学習C」および教職に向けた「貴方の課題」は何ですか。

### IV：改善課題や要望

いずれも、考察で述べる。

## ②-B：小学校

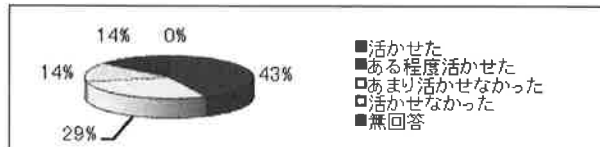
### I：免許・資格に関する基本情報

小学校実習履修者32名中、回答者は14名（44%）であった。他には、特別支援学校を10名が、幼稚園を5名が、中学校を4名（国語2、英語2）が、高校を3名（国語1、英語2）が希望していた。他に、保育士資格を国家試験で希望する者が1名いた。

### Ⅲ：応用実習と大学カリキュラムとの関連

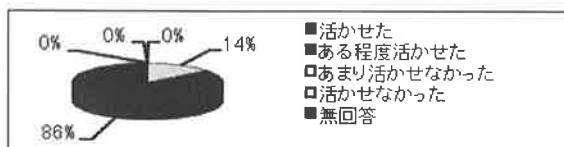
幼稚園と同様に、基礎実習と応用実習とに挟まれた「大学での学習B」すなわち「3年生前期に受講した科目での学習」に限定して、応用実習にどの程度活かされたかを尋ねた。「無回答」等が多いことから、扱いは参考程度にとどめる。

### 3-1 教職に関する科目



「ある程度活かせた」が43%、「あまり活かせなかった」「活かせなかった」が43%であった。自由記述は、b-「実習の心構え」「講義の中で具体的な活動がありそこでの考え方を実習で授業を考える時に活かした」「教える内容をある程度」「子ども達とどう関わっていくべきか考えるきっかけとなった」「特別活動や生徒指導についての知識をもって実習に臨むことが出来た」「子どもをどのようにまとめるかを知ることが出来た」、c-「実践的に教材研究を行うものは良かったが概念の詰め込み形の授業は実習に反映しにくい」「実習校の先生が来たときの講義は活かした/もっと実習でどうあるべきか研究授業検討会の昨年度の実践例や進め方を教えてほしいかった（教育実践の基礎）」であった。

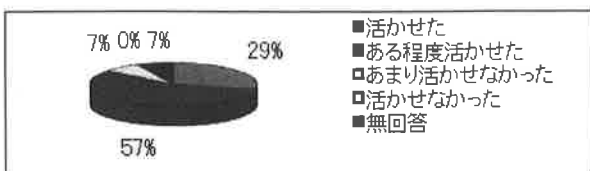
### 3-2 幼稚園教育に関する科目





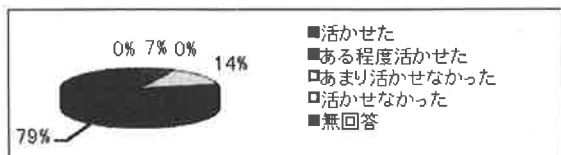
「無回答」が86%であった。自由記述はなかった。

### 3-3 小学校教育に関する科目



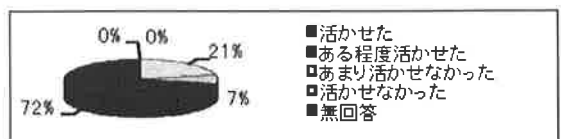
「活かした」「ある程度活かした」が86%であった。自由記述は、a-「指導案の作成」「国語と音楽については指導案の作成や授業中の視点等を学び授業実践に役立った」「教材研究の基本的なやり方を身につける事ができ、授業づくりの際とても役に立った」、b-「指導案の書き方、教材研究、授業を見る視点」「指導案を書いたこと、全学年の教科書を見よということ」「国語・音楽学習指導論しか活かせなかった」「教育の原理を知ることによってクラス経営に活かした（道徳教育論）」「各教科の指導案を書くのに慣れることが出来た」、c-「道徳教育論、生活総合学習指導論は活かせなかった／道徳の内容や道徳について学習していても実際に生活の中や道徳の時間に実践するのは難しかった」であった。

### 3-4 中学校（高校）教育に関する科目



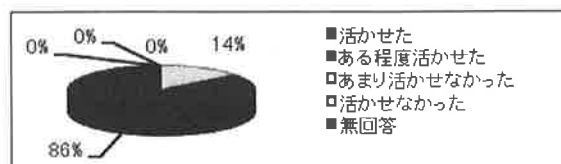
「無回答」が79%であった。自由記述は、b-「様々な言語表現があるという事を知った上で英語の授業を参観する視点が定まった」であった。

### 3-5 特別支援教育に関する科目



「無回答」が72%であった。自由記述はなかった。

### 3-6 保育士資格に関する科目



「無回答」が86%であった。自由記述はなかった。

### 3-7 地域学・地域教育学に関する科目

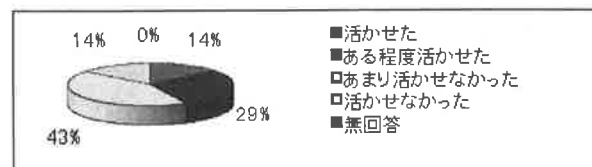


「活かせなかった」が72%であった。自由記述は、c-「どう活かすべきか分からなかった」、d-「講義内容が全く活かさない総説はしなくてよい／それよりも教科教育学の充実をもっとしてほしい。そちらの方が学生のニーズ（教育学科）に合う」「地域学総説そのものに偏りがあって何を学んだのか分

からなかった」「総説の内容が環境などとても専門的すぎる」

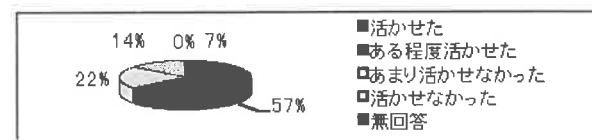
「全ての学科の人にもっと共通点を持てばいろいろな場で活かせると思う」「実際の教育現場に役立つようなことは聞いていない」「授業や日々の生活を送ることで精一杯でなかなか地域に目を向けられなかった」であった。

### 3-8 地域教育ゼミ



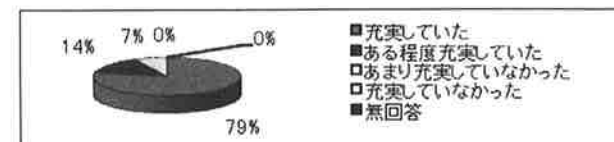
「あまり活かせなかった」「活かせなかった」が57%であった。自由記述は、a-「授業を創る・見る視点について学ぶことが出来た（教科教育）」「書道の授業を実践したのでゼミの学習を活かすことが出来た」、b-「自分の研究課題を明確に出来た」「子どもを見る視点が培えたと思う」「小学校でどのような英語活動が行われているか知ることが出来た」、c-「授業実践とゼミの領域がかぶらなかつた」「指導法などというよりは学校の体制や他国の教育制度などについてのゼミだったので」「児童に寄り添う姿勢などは活かした／特別支援教育の全ての子どものニーズに対応するという意味では活用できる／考え方や支援もあったが論文抄読の内容はあまり活かせなかった」、d-「教育学は活かす、活かさないというより独自に学び広く教養として得た内容なので悪かったわけではない」であった。

### 3-9 教育実習の事前指導（「教育実践の基礎」や実習オリエンテーションなど）



「活かした」「ある程度活かした」が64%であった。自由記述は、a-「現場の先生に話を伺えて良かった」、b-「実習に臨むにあたっての基本的な事項を確認出来た」「前半実習での反省点を指摘して頂いたので後期にすべきことが明確になった」「実習に対する意識」「テーマを持って取り組めた」「実習に向けての心構えや事前準備など」「今日どのような目標を立て実習に取り組むかを具体的に考える事が出来た」、c-「学校種に関わりなく全体で講義するのであればもっと各学校の繋がりを見たかった」「『教育実践の基礎』というのなら実習でそうあるべき授業実践や子どもとの関わり方など基本的なことをしっかりと教えてほしい」「実際に小学校で行われた講義の方が良かった」、d-「教育現場の実態は知ることが出来たがそれらを実習で使えるような内容ではなかった」であった。

### 4-1 応用実習の率直な感想を述べなさい



1名を除く13名が「充実していた」「ある程度充実してい



た」と回答していた。自由記述は、a-「楽しく充実した2週間だった」「指導教員との連絡・相談を密に取りクラス経営、教科指導にあたることが出来た／また学年のチームとして子どもの指導について考え実践できたことは大きな成果だと言える」「実践を通して子どもの反応の予想・支援の在り方を考えておくことの大切さを実感することが出来た／また研究授業にあたり同学年の先生・実習生が一丸となって取り組めたことは私にとってチームで働くことを学ぶ機会となった／更に、学年によって発達が大きく異なり接し方も変えなければならぬということを感じた」「児童に向き合い前回よりも教材研究に力を入れた／そのような部分ではとても充実していたが他の実習生（学年団として）とはあまり協力できず模擬授業なども1回もできなかったのが残念だった」「基礎実習の反省はしっかりと活かした／緊張で不安でいっぱいだった授業実践が応用では楽しく出来るようになった」「メンバー（担任・教科の先生、実習生）に非常に恵まれた／授業実践も楽しく出来た」「一日一日の視点の付け方が自分の中で明確になっていたのでもちろん実践を行うことが出来た」「本当にしんどい2週間だったが基礎実習で学んだことを応用させ授業実践などを通してたくさんのことを学ぶ事が出来た」「基礎実習で出た反省にしっかりと取り組むことが出来たし、日々の反省を大切に日々目標を持って出来た／意識も実習に参加している全員が基礎実習の時より高く、高め合うことが出来た」、b-「ハードだったが基礎実習で反省したこと、また応用実習で出てきた課題を克服しようと2週間過ごした」、c-「基礎実習で得た自分の課題などに対しては真剣に取り組んだ結果、ある程度充実していたが指導教員の先生にもっと指導してほしいことがあったことや実習に本気で取り組んでいない実習生がおりやりづらいことが多々あった為」であった。

**4-2 基礎実習と応用実習とはどのように繋がりましたか。貴方自身において、特に「応用実習に向けて準備したこと」「基礎⇒応用へと何か発展・深化したこと」があれば具体的に述べて下さい。**

**4-3 実習を終えて、基礎実習・応用実習の在り方および両者の繋がりについて、良かった点や今後さらに改善を要する点、改善への提案などがあれば具体的に述べて下さい。**

**4-4 今後の大学での「学習C」および教職に向けた「貴方の課題」は何ですか。**

#### IV：改善課題や要望

いずれも、考察で述べる。

### ③「特別支援学校アンケート」

#### I：免許・資格に関する基本情報

特別支援学校実習履修者17名中、回答者は12名（71%）であった。他の免許状は、小学校を11名、幼稚園を6名、中学校を3名（国語2、英語1）が希望していた。また、保育士資格は5名が国家試験により取得を希望していた（保育士資格取得コースは2年次9月の同時期に保育実習が重なっているために特別支援学校実習は履修していない）。

#### II：基礎実習への参加状況

3年次での基礎実習の予定は、8名が小学校、4名が幼稚園であった。

#### III：特別支援学校実習と大学カリキュラムとの関連

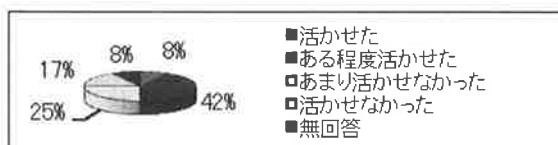
幼稚園・小学校の基礎実習アンケートと同様の項目で、2年次前期までの大学での学びが特別支援学校実習にどのように生かされたかを問うた。

##### 3-1 教職に関する科目（「人間と教育」、教育学、心理学など）



「あまり活かせなかった」「活かせなかった」が75%であった。自由記述は、b-「実践的な内容を扱っていた部分があったのでその点は活かす事ができた」「実習に行くための気持ちの準備が出来た」、c-「あまり実践的に活かせる科目ではなかったから」「実際に生徒と関わってみると考え方は個人によってばらばらで声掛けひとつを見ても先生の指導なしでは難しかった」、d-「覚えていない」であった。

##### 3-2 幼稚園教育に関する科目



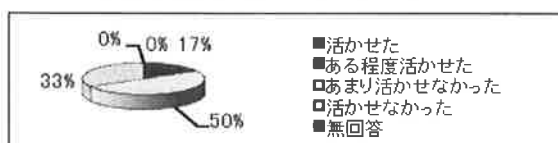
「活かした」「ある程度活かした」が50%であった。自由記述は、a-「絵本の読み聞かせて本を選ぶ時や、自由遊びで活かした」、b-「小学部の子どもの発達年齢に合わせた指導に活かすことが出来た」「教室の環境作りも生徒の支援のひとつだと知った（机の配置など）」であった。

##### 3-3 小学校教育に関する科目



「ある程度活かした」が50%であった。自由記述は、b-「小学校教育と特別支援学校での教育の比較や考え方を考える上で参考になった」、d-「よく分からない」であった。

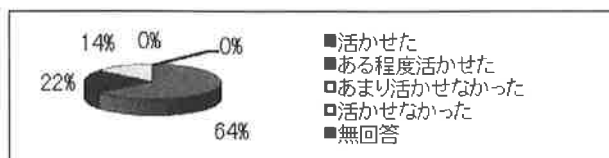
##### 3-4 中学校（高校）教育に関する科目



「あまり活かせなかった」「活かせなかった」が83%であった。自由記述は、b-「指導案を書くときの参考にした」、c-「言葉の使い方、考え方について考えることが出来た」、d-「科目をとっていない」であった。

##### 3-5 特別支援教育に関する科目

「活かした」「ある程度活かした」が86%であった。自由記述は、特別支援教育の3つの学問分野別に尋ねた。



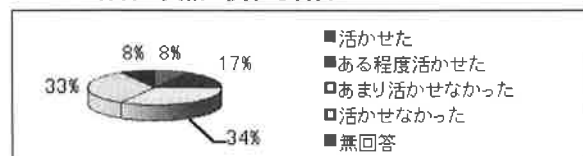
○教育学関連：a-「指導案の書き方など実習において、絶対に必要な事柄を授業で取り上げていたので活かすことが出来た」「授業風景のビデオや学習指導案の書き方等学習していた」「知的障害児等の指導法」「附属のことがよく分かったから」「附属のカリキュラム・生活単元学習について指導案を書くのに活かした」「授業の見方ややり方、指導案について」「子ども達の活動内容を知れた」、b-「指導案作り」であった。

○心理学関連：a-「子どもの発達から見て、発達年齢がどれくらいであるかなどの点で活かす事が出来た」「発達年齢を診断するのに活かした」「ひとりひとりの発達段階を考える時」「生徒毎で発達段階に違いが見られること」「障害の特性」「知的障害児の教育診断」、b-「自閉症について」、c-「内容が保育っぽい事だったから」であった。

○医学関連：a-「障害児の特性等、知っていて良かったところが大きかった」「各障害での生徒の特徴や違いなど」「障害の特性や関わり方」「肢体不自由児の生理・病理」、b-「一部の生徒には授業でやったことが活かされたから/病気と子どもに対する対応」であった。

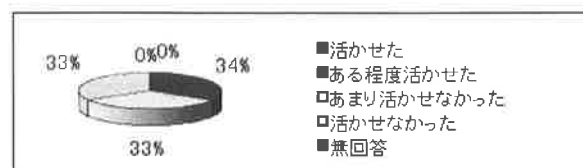
なお、全体として、c-「言葉が聞いたことある位で終わった」も見られた。

### 3-6 保育士資格に関する科目



「あまり活かさなかった」「活かさなかった」が67%であった。自由記述は、a-「保育の要素が大きく1日の生活の中で活かした」、b-「小学部では手遊びを取り入れていたのでその点で活かすことが出来た」「教室内や生徒の廻りの環境作りなどについて」であった。

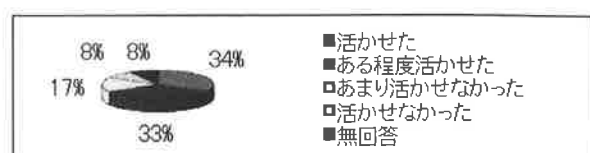
### 3-7 地域学・地域教育学に関する科目(地域教育学入門、地域教育計画論など)



「あまり活かさなかった」「活かさなかった」が66%であった。自由記述は、b-「教育に関して知らなかったことが多かったので活かした」「教育する立場としての自分などという考えの参考になった」であった。

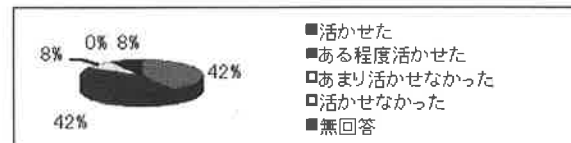
### 3-8 少人数でのゼミナール(大学入門ゼミ、総合演習、地域教育ゼミなど)

「活かした」「ある程度活かした」が67%であった。自由記述は、a-「子どもの実態を知れた」「実際に体験できた」「自



分たちでその障害について調べたのがよかった」「ゼミでの話し合いで学科の人たちと意見交換しやすかった」、b-「生徒の実態を知るときのイメージが持てた」「保育ゼミで発達段階について学んだことが活かした」であった。

### 3-9 教育実習の事前指導(実習オリエンテーションなど)



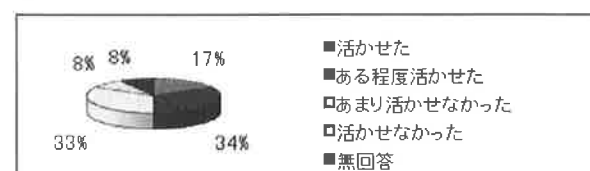
「活かした」「ある程度活かした」が84%であった。自由記述は、a-「どういう実習にすべきか考えることが出来た」「気をつけておくことなど」「心構えや生徒への接し方などを学んだ」「これがあることで実習に対する不安が少し減った」、b-「やるべきことや、気持ちが高まった」「学校のことが知れた」「実習前の心構えと担当学部の実態が聞けて少し不安が和らいだ」、c-「担当教員や生徒のことなど、もっと詳しく教えてほしかった」であった。

### 3-10 カリキュラム内で行われる学校見学や交流体験など



「活かした」「ある程度活かした」が67%であった。自由記述は、a-「ふれあいピック、納涼祭」「実態を見たままではあるが、理解できた」「ある程度実際に実習をする生徒などに対するイメージを持った方が良いと思う」「実際に現場に行く機会が無いので様子を知ることが出来て良かった」、b-「学校内や雰囲気分かって実習前の不安が少なかった」であった。

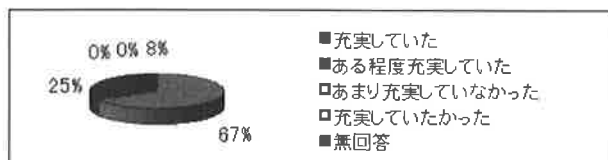
### 3-11 カリキュラム外で行われる子ども会等のボランティア活動など



「活かした」「ある程度活かした」が51%であった。自由記述は、a-「サークル活動」「附属にはよくボランティアで行っているの子ども達に早く馴染むことは出来た」、b-「接しやすい」「自信や慣れ・補助の仕方など経験に対する部分が重要」、c-「先生としてではないから」「カリキュラム外ではあまり行かないから」「あまり参加出来ていなかった」「あまり参加したことがないし参加した時も子どもとあまり関わることが出来なかった」であった。

### 4-1 特別支援学校実習の率直な感想を述べなさい

「無回答」の1名を除く11名が「充実していた」「ある程



度充実していた」と回答していた。自由記述は、a-「自分の知らないことを素直に認めて吸収でき次に活かす場があるということ」「毎日学ぶことが多く、とても良い実習だったと思う」「自分への課題が多く見つかった／教師の大変さや子ども達と関わる楽しさを知った上でこれからどうしていきたいのか考えていきたいと思った」「教育を受ける子どもの気持ちになってどのような授業がよいのかを考えることができた」「精一杯考えて授業をしてもやはり不備は出るなのでその後の改善が大切だと感じた」、b-「子どもと接する中でどうすればお互いの気持ちが寄り添えるのかを考えるようになった」「いろいろな課題が見えたが改善するにはもう少し時間がある」「指導案を書くことに時間を費やしすぎたり、授業のことで頭がいっぱいになってしまい、子ども達のことを深く見ることは出来なかった」であった。

#### 4-2 今後の大学での学習や将来に向けた「貴方の課題」は何ですか。

#### IV：改善課題や要望

ともに、考察で述べる。

### IV. 要約と考察

上述の「結果の概要」及び考察の項に回した自由記述部分をもとに、1)「サンドイッチ方式・幼稚園」、2)「サンドイッチ方式・小学校」、3)「2年次实施方式・特別支援学校」の順に、まず結果の特徴を要約した上で、各方式の眼目並びに今後の課題について考察する。

#### 1)「サンドイッチ方式・幼稚園」

##### 1) - (i) 学科カリキュラムは実習に活かされているのか？

ここでは「①基礎実習アンケート」から「大学での学習A→基礎実習」という流れを中心に、学科カリキュラムが基礎実習に活かされているかを検討する。

「活かした」「ある程度活かした」の回答が合わせて50%以上であったのは、「教育実習の事前指導(93%)」「幼稚園教育に関する科目(86%)」「少人数でのゼミナール(86%)」「保育士資格に関する科目(79%)」「基礎実習の前に出かけた介護等体験、保育実習、特別支援学校実習など(72%)」「カリキュラム外で行われる子ども会等のボランティア活動など(50%)」であった。50%未満では、「特別支援教育に関する科目(36%)」であった。

一方、「あまり活かせなかった」「活かせなかった」が合わせて50%以上であったのは、「地域学・地域教育学に関する科目(93%)」「教職に関する科目(79%)」であった。また、「小学校教育に関する科目」「中学校(高校)教育に関する科目」は「無回答」も多かった(43%, 57%)が、「あまり活かせな

かった」「活かせなかった」が合わせて共に43%であった。

大きくりに言えば、(1)実習の事前指導、(2)幼児教育・保育に関する科目、(3)実践的な科目・実習やボランティア体験、(4)少人数ゼミの4種は役立ったという学生の評価が高く、一方で小・中学校に関する科目は結びつきが弱く、また地域学関連及び教職関連は特に評価が低かった。

幼稚園実習に限らず、「原理的な科目はあまり役立たない」「教育実習により直接的に活かすことのできる実践的な科目が欲しい」という回答傾向が顕著であった。しかし、アンケートでの「活かした」「活かせなかった」等の判断はあくまでも学生の主観によるものであって、「活かした」「活かせなかった」という要因は複合的である(学生側に主因あり、スタッフ側に主因あり、双方に起因する場合など)。また、開放制である以上、教育実習に結びつくことを目的としない科目も当然ある。鳥取大学における教育の理念である「知と実践の融合」がどのように発信され、実践され、学生諸君に結実しているかの、その本質が問われていることは間違いない。

##### 1) - (ii) サンドイッチ方式の眼目は達成されているのか？

基礎実習のねらいは、2週間の実習体験を通じて、それ以降の「大学での学習B」及び「応用実習」に向けた自らの課題を把握させることにある。

#### ○「大学での学習B」や「応用実習」に向けた課題の把握(基礎実習アンケート、設問4-2)

自由記述から、「実態把握」「一人一人」「内面」「心情」「個と集団」「環境構成」「意図をもつ」「指導案」「引き出し」「子ども観」「保育観」「発達」など、様々な「課題」を自覚したことがみてとれる。

具体的には、「意図を持ちながら保育をする／環境構成を子どもの実態を把握した上で行う」「個と集団を見ること／意図を持って行動・発言すること／指導案を練って書けるようになること」「全体を進行しながら一人一人を丁寧に見ていくこと／ピアノ／指導案づくり(より良くかつ早く)」「子どもの遊びを発展させられるようまずは自分が沢山の遊びを知っていくこと／子どもと関わり合う機会を積極的に設け、様々な子どもと出会ったりしていく中で自分の中の子ども観を広げていくこと」「遊び・歌・絵本など自分の『引き出し』を増やすこと／子どもの発達について知識を高めること／子どもの心情を読み取ること」「自分の保育観を広げる／附属幼稚園の子ども達や保育の実態をしっかりと掴めるようにし、そこに繋がる保育をしていけるようになりたい／事例検討」「一人一人を見ることです」「個々の内面まできちんと見ること／一人の保育者として意識し子ども達と接すること／この2つが特に私にとっての課題となった」「先生という感じではなかったものでクラスの先生を務められる様になる／そのために子ども達の気持ちを理解してやれるようにいろいろ学びたい／普段から子どもと接する機会を増やしたい」「会話や遊びなどの引き出しを増やしておくこと」「もっとボランティアなどをして普段から子ども達と触れ合う機会を持つこと／自分の考えを述べるときは頭の中で整理してからきちんと意図を持って話

すこと／子ども達の今の実態を把握するために何をすればいいか考えておくこと」「応用実習では子どもをもっとよく観察し、実態を把握するようにしたい／また、基礎実習で意図を持って保育する大切さ、環境設定の重要性を知ったのでそのことも応用実習ではより深めていきたい」「子どもの実態を把握するために、どのようにすればよいのか」であった。

#### ○「応用実習に向けて準備したこと」「基礎→応用へと発展・深化したこと」（応用実習アンケート、設問4-2）

以上のような課題の自覚に立って、「応用実習に向けて準備したこと」「基礎→応用へと発展・深化したこと」についての自由記述をみてみよう。

「基礎では手遊びなど活動のバリエーションを自分が持ち合わせてないと感じたので調べたり探したりした」「応用実習では事前に観察実習をして応用に臨めたのである程度子ども達一人一人の特性が掴めていた事、基礎で捉えた課題について自分自身で日々考えながら行動できた事が基礎から応用に繋がったと思う」「子どもにどんなことを感じて欲しいか、そのためにはどんな遊びが考えられるか」「基礎では出来なかった『組の先生』について、『ひとりの組』ではなく『一人一人の集まり』として見ることで『組の先生』になれたと思う」「子ども達と出来そうな遊びなどを調べて準備しました／全体の前に立って進める回数が増えたので経験を積んで場慣れが出来たと思うし、視野も広がったと思う」「事前に行事に合わせた教材準備（絵本を探しておくなど）をした」が記載されており、応用実習までに具体的な準備がなされたことがみてとれる。

#### ○基礎実習→応用実習の在り方や繋がりについて（応用実習アンケート、設問4-3）

基礎実習→応用実習の在り方や繋がりについて、附属幼稚園側は基礎と応用とで実習に入るクラスを変えたり、事前に応用実習のクラスを公表して自由に参観できる機会を設けて下さった。そうした工夫もあって、幼稚園実習に関する「基礎実習→応用実習」の繋がり具合は学生に好評であった。

具体的には、「7月に自主的ではあるが観察できる期間が設けられたこと」「前のクラスとはまた別のクラスに入れて頂けたことでより多くの子ども達と触れ合えたこと、発達の違いなどを学べた」「基礎で学んだことを反省して応用実習で活かすことが出来たので5月・9月の2回、少し期間をおいてあり、考える時間が出来たのでよかった」「基礎実習があったので園での生活がほとんど把握出来ていた為、応用実習では不安な部分は少なかった／年齢が異なるので子どもへの対応が難しいところもあった」「基礎実習で日誌や指導案の書き方を学んでいたので応用に繋がった／ただ、担当の先生が変わると言っている事（指導内容）も変化することがある／また、基礎で子ども達の様子がある程度分かっているので応用に活かしやすかった」「年齢の違うクラスに入れて頂いて、年齢の特徴・違いに触れることが出来た」というものであった。

#### ○今後の「大学での学習C」および教職に向けた課題（応用実習アンケート、設問4-4）

さらに、応用実習終了後の「大学での学習C」への課題に

ついて、「全体を見る目」「より実践的な力」「卒論」「就職」「施設実習・特別支援学校実習」「引き出しを増やす」といった指摘がみられる。

具体的には、「子どもたち一人一人を見るだけでなく、クラス全体を見る目を養う」「より実践的な力をつける（ボランティアなどを通し、いろいろな特性を持った子ども達とふれあう）」「卒論などを通して自分が保育者になったときに活かせることをしっかり勉強していきたい」「自分の就職するであろう地域の保育についても調べておく」「まだ施設実習や特別支援学校実習が残っているのでそれに向けた学習・特別支援教育／保育の実践」「遊びの引き出しを増やすこと」であった。

以上のように、幼稚園実習に関して、「サンドイッチ方式」は一定の成果を上げていた。

#### 1) - (iii) 学生からの改善要望及びそれへの対応策・検討課題は何か？

「基礎実習アンケート」「応用実習アンケート」の設問IVの自由記述について、学生からの改善要望をテーマ別に整理した上で、考えうる対応策や検討課題を述べる。

##### ○より実践的な講義や演習

まず、指導案や日誌の書き方などを含む、より実践的な講義や演習への要望が高かった。

具体的には、「指導案について指導する講義の新設」「指導案を書く授業があったらよかった」「指導案や日案・日誌の書き方は事前に指導しておいてほしい」「指導計画の書き方や、実際にその授業をやってみるがあればもっと勉強になると思いました」「日誌の書き方や日案の書き方など事前に大学で指導してほしい／他にもたくさんすることがある中で、実習で初めて書くというのは負担が大きいのではないかなと思う」「保育実習の時、部分指導案・日案等の書き方についてもっと事前に大学で指導してもらいたかった／幼稚園では見方を配るなど、園の書き方の指導があったが、保育所ではそういったことがなかったのでどう書けばいいかわからなかった」「指導案の書き方、先輩方の話を聞くなど具体的なもの」「大学ではもっと具体的に実践的なことを学んで実習にいきいたい」（基礎実習アンケート）、「指導案の書き方や指導をもっとすべき／実習に行っていきなりその場で書くというのはとても辛かった」「指導案を書いて実践する講義」「指導案の書き方をちゃんと習いたい」（応用実習アンケート）であった。

次に、附属園を含めて、もっと現場と日常的に連携し、早い段階から見学や子どもと関わる機会を増やしてほしいとも望んでいる。

具体的には、「実習以外の場面で、実際に子どもと関わる時間を作って頂きたいです／また、教育現場が見えてくる授業内容であってほしいと思います」「授業で子ども達と関わる機会があればと思います／また、日案の書き方を実習前に指導して頂ければと思います」「附属であるにもかかわらず、小・養に比べ授業などで足を向けることが少なく、状況も分からなかったため、もっと授業で子ども達や幼稚園と関わる機会があってもよいのではないのでしょうか」「事前（に附属校の先生の話）を聞いてオリエンテーション前に緊張を持って大

学生を送りたい」(基礎実習アンケート)、「実際に見学したりする機会が増えると良い(保育所や施設を)」(応用実習アンケート)であった。

なお、「応用実習前にも事前オリエンテーションをしてほしい」という要望もあった。

### ○学科カリキュラムの配当学年の調整

幼稚園教育に関する科目や保育士資格に関する科目について、実習との関係で学年配当を見直して欲しいとの要望も多かった。

具体的には、「保育系は2年前期が21コマなど大変だったので回せるものがあれば1年次におろした方がよいと思う」

「授業数はバランスよく組んでほしい/1年生でもっと取れる授業をおくべき」「実習前の知識を得なければならないとは思っているのだが、特に保育士資格に関するものは2年次とても多いにもかかわらず3年次に非常に少ない/沢山するのも良いがそれでは全てが身に付かないのではないか」(基礎実習アンケート)、「幼教コースになると、授業数のバランスが悪いので出来るだけバランス良くとれるように配慮してほしい」「保育は他の講義と被っていて興味ある科目が受講できない/2年前期に22コマなど科目数が偏っているのを改善してほしい」(応用実習アンケート)であった。

### ○地域教育学との関わり

「地域教育学科ならではの具体的な取り組みのきっかけを作って頂きたいです/なかなか地域のキーパーソンという実感が湧きません」という要望もあった。

### ○基礎実習の公欠扱い

基礎実習は他科目が開講されている期間中、すなわち3年次5月に2週間出ることになっている。この取り扱いに関する要望もあった。

具体的には、「教育実習が公欠にならないのはおかしいと思う/一生懸命2週間という短い期間ではあるが自分の将来の為に学ぼうとしている学生の姿も認めてほしい」「実習中の講義で公欠届けに関係なく欠席扱いになるのはおかしい」といった不満が寄せられた。

### ○大学の施設・設備の整備

「大学で準備ができるように開放している教室数が少ない」という要望もあった。

⇒幼稚園を主免許状とする学生は、併せて保育士資格の取得しようとしている(基礎実習アンケート、設問1)。大半は保育士資格取得コースに属している。また、特別支援学校の免許状を希望する者も多い。従って、「保育実習(2年次)→幼稚園実習(3年次)→特別支援学校実習(4年次)」という流れが幼稚園タイプの基本ルートであると推定できる。

⇒カリキュラムに関しては、保育士と幼稚園教諭の養成を一体的にとらえる重要性が指摘できる。内容をもっと実践的にするとともに、学年配当を再調整すべきであろう。

⇒附属幼稚園とのより日常的な連携(見学や幼児との交流の機会を設けること[カリキュラムの一環として、またはカリキュラム外で]、附属幼稚園のスタッフによる学科カリキュラムの一部担当やオリエンテーションの回数を増やすこと等)

を図るべきであろう。

⇒地域学部や地域教育学科で行われている保育士や幼稚園教員の養成である以上、常に地域学や地域教育学との関わりを意識する必要がある。園全体の運営も学ばせてはどうだろう。

⇒以上の学科内で対応可能な要望に関する検討を、「幼稚園教育並びに保育士資格に関する科目を開講しているスタッフ」を責任者集団として、精力的に進める。

⇒他科目開講中に出かける実習の取り扱い、実習中の放課後や夜間の実習準備室の確保などは、全学レベルで検討が行われるべきであろう。

(開放制に立った対応策としては、①実習に出かけている2週間分の補講を確実に、②9月の応用実習期間を長くして「基礎実習1週間+応用実習3週間」にすることで補講回数を1回に抑えるかまたは全学で基礎実習1週間分の日休期間を設ける、③基礎実習を集中期間実施方式とせず例えば3年次前期の毎週月曜日出かける方式として月曜に他科目は置かない、等の案が思いつく。)

## 2)「サンドイッチ方式・小学校」

### 2)ー(i) 学科カリキュラムは実習に活かされているのか?

「活かした」「ある程度活かした」の回答が合わせて50%以上であったのは、「教育実習の事前指導(80%)」「小学校教育に関する科目(70%)」「基礎実習の前に出かけた介護等体験、保育実習、特別支援学校実習など(70%)」「カリキュラム外で行われる子ども会等のボランティア活動など(65%)」「少人数でのゼミナール(55%)」であった。50%未満では、「特別支援教育に関する科目(35%)」であった。

一方、「あまり活かせなかった」「活かせなかった」の回答が合わせて50%以上であったのは、「地域学・地域教育学に関する科目(95%)」「教職に関する科目(85%)」であった。また、「幼稚園教育に関する科目」「中学校(高校)教育に関する科目」「保育士資格に関する科目」は「無回答」も各40%、45%、55%と多かったが、「あまり活かせなかった」「活かせなかった」を合わせて各50%、35%、45%であった。

大きくくり言えば、(1)実習の事前指導、(2)小学校教育に関する科目、(3)実践的な科目・実習やボランティア体験、(4)少人数ゼミの4種は役立ったという学生の評価が高く、一方で幼稚園・保育士並びに中学校に関する科目は結びつきが弱く、また地域学関連及び教職関連は特に評価が低かった。

### 2)ー(ii) サンドイッチ方式の眼目は達成されているのか?

#### ○「大学での学習B」や「応用実習」に向けた課題の把握(基礎実習アンケート、設問4-2)

自由記述から、「授業」「構成・組み立て・展開」「目標」「教科」「学習内容」「学年」「発達段階」「児童」「一人一人」「学力」「教材研究」「教師」「指導案」「引き出し」など、様々な「課題」を自覚したことがみてとれる。

具体的には、「授業をしっかりと構成していく力や子どもへの

対応をしっかりとするために自分の考えをしっかりと持つこと／実践で役立つことを聞く」「どのように授業を組み立てるか、どのように子どもを主体にしていくかということについての視点や考え方を増やす」「少しでも多くの引き出しを増やすことです／授業について、教科について子ども達の発達段階について、できるだけの努力をすることです／きっと、応用実習では新しい課題が出てくるだろうが、それも自分の成長のためだと乗り越えていきたい」「教科・学年毎における学習内容、目標の把握だけに関わらず教材研究をする必要性がある／また、子どもの発達段階の理解や個々の子どもに応じた接し方ができるようにならなければならない」「課題は『児童の実態を把握する』ことです／特に教材教育において、児童のこれまでの学習の経過や培ってきた学力、これから学ぶ内容の意義について考えを深めることです」「教材研究をしっかりと／実習生として自覚する」「授業中は指導案にとらわれすぎずに子どもの反応を受け取って対応していきたい」「教材研究」「教材研究を十分にすること／友達としてではなく、教師として自覚のある接し方をする／叱る時は叱るなど」「応用実習では、実際に授業を担当する時間が多くなるので児童の実態をしっかりと把握した上で、児童に付けさせたい力をどのようにして指導するかをしっかりと研究したい」「教材研究がより深くできるようにする」「教材研究／子ども達の実情に応じた課題設定と授業の展開、子ども達と接する態度／積極的に且つ教師としての立場を忘れずに」「教材研究をしっかりとすること、そして児童がどんな反応をするかもっと考えること」「何につけても勉強不足だった」「色んなアイデア、引き出しを創る」「教科の知識・教材の研究・授業の考え方」「教材研究／将来について考えること、見通しを持つこと」「児童の発達段階に即した学習課題を知り、授業をする上で必要とされる基礎的事柄を身につけること／また教材研究の一環として様々な文章に触れること」「幅広い知識の習得」「子ども一人一人をしっかりと見る／自分の計画重視でなく、子どもに合わせた授業を展開すること」であった。

#### ○「応用実習に向けて準備したこと」「基礎→応用へと発展・深化したこと」(応用実習アンケート、設問4-2)

事前にクラス発表を行ったり、自由な観察機会を設けた幼稚園実習に比べると、応用実習に向けて事前に準備したという例は少なかった。とは言え、基礎実習から応用実習へと発展・深化したという感想は多かった。

具体的には、「基礎では教材研究不足を痛感したので応用では担当教科が決まるとすぐに準備に取りかかった」「教科指導であれば『つかむ・ひろげる・たかめる』を前半で学び、後半では『つなげる』といった子どもの6年間の学びに合わせる視点が得られた／クラス経営では子どもの姿から各学年の子どもの育ち、例えば協力して活動するなどの違いを発見でき、指導に活かした」「学級経営をどのようにしていけばいいのかということに応用ではさらに深く学べたように思う／それは基礎において学級経営を見たこともあり、比較しながら考えることが出来た／また、6～8月にかけての教材研究がとても生きた」「発達年齢による違いを感じられた／教材研究

の必要性を指導する中で強く感じた」「前回の実習を振り返りながら授業づくりに取り組むことが出来た／児童や授業を観察する視点が明確になってきた」「しっかりと教材研究することで落ち着いて授業ができ、子どもの発言や様子もよく見えるようになった」「授業1時間するのはただ単に自分の担任する授業の箇所だけを学習するのではなく学年ごとに段階を踏んで学んでいくことの大切さや教材に対する知識を習得するために教材を研究する大切さを学んだ」「授業実践に向けて指導案の作成は準備した／また一日担任や運動会の練習などを通して全体を見る目を養った」「目的のある授業・子どもへの支援を行うための努力をした／基礎では自分の想いが先行しがちだったが、どうすべきなのかを考えて実践できた」「基礎実習は初めて経験することばかりで、こなすというような実習になった／応用実習は基礎実習で不完全な部分を補うようにした」「児童にあった授業づくり」「基礎実習で子どもをよく観察していたからこそ、応用実習の早い段階で授業をする事が出来た／指導案も応用実習が始まる前にある程度完成させておいた」「応用実習に向けては基礎実習で出た反省点、どう改善するかを具体的に書き出した／また、目標を明確にするため授業実践、日々の生活などの項目で目標を立てた／そのため毎日の反省会が充実したものになった」であった。

#### ○基礎実習→応用実習の在り方や繋がりについて(応用実習アンケート、設問4-3)

自由記述の中に「サンドイッチ方式」へのプラス評価がみられた。一方、基礎実習と応用実習には含まれた「大学での学習B」の改善・充実を求める声や、基礎実習の際に問題が認められた場合にはその学生に対して応用実習までに何らかの指導や対応を求める声もあった。

具体的には、「サンドイッチ方式はいいと思う／応用実習が運動会練習と被っていて貴重な経験をさせてもらえたと思うが附小の先生方はかなり大変だったのではと思う」「課題意識を持って実習に取り組む学生にとってはサンドイッチ方式は大変良いと思う」「サンドイッチ方式をとることによって、応用実習がより充実したものになった／5月の時点での学級と9月での学級の違いについても見ることが出来た／1年間を通した学級経営、子どもの変化を見る機会があればいいと思う」「低学年・高学年をそれぞれ担当できたこと」「基礎実習でしっかりと子どもを見て学び応用実習へと向かえたのは良かった」「いろいろな児童と関わることが出来た」「基礎・応用実習があることは良いことだと思う／しかし繋がりはまだ薄いと感じた／もっと学生同士が意見を言い合える時間や反省を改善していけるような時間があればいいと思う」「心身の負担も少ないし改善する点をあげるとすれば部属の特性を活かしてもっと実習前に実地経験(大学での講義の一環として授業や子どもを観察する場を設けてはどうか)を増やし、卒業後の現場で感じるであろう壁を低くしてもよいのではと思う」「基礎実習と応用実習の間に実習での課題を次に活かすことが出来るように普段とは違う時間をとってほしい」「基礎実習を終えてから応用実習が始まるまでの期間(学習B)に振り返る時間をもっと設けるべき／『そんな状態でそんな気

持ちで応用実習に来て何になるのか』という実習生がいたため「基礎実習中の実習生の態度や熱意を考慮して応用実習へ行っても大丈夫かどうか大学側が判断した上で参加するようにしてほしい／指導案が5行で終わっていたり指導書を写したり全く誠意の感じられない実習生が多く、私達も困ったし、児童も困惑していた」「教育実習は教師への適正を計る場でもあると思うが本気で臨んでいる人もいる／はっきり言って単位の為だけの教育実習は本人の為にもならないし、本気でやっている人にとっても迷惑／教育実習（基礎・応用とも）面接などによって、適正ややる気を確認して頂くことを望みます」「基礎実習での学生側の評価をもっとすべき／やる気の無い人や十分に勉強していない人、協調性の無い人などいるので応用実習での配置を考えないとチームで実習を乗り切れないクラスもあったように思う」「担当授業実践の数が増えた（2→5）だけのような感じがする」であった。

#### ○今後の「大学での学習C」および教職に向けた課題（応用実習アンケート、設問4-4）

「大学での学習C」や教職に向けた課題としては、「一人一人の学びを支える」「具体的な支援」「専門性を高める」「学級経営」「教養・知識の引き出しを増やす」などが見られた。

具体的には、「一人一人の学びを支えるだけの視点を増やすこと／特に発達障害児に対し、どれだけの手だてを持って支援にあたれるのか、学習困難な児童に対しどのように教授するのか等、スキルの取得に力を向けたい／教職に向けては採用試験対策（一般・教職教養）のひたすら学ぶことだと思う」「子どもが授業をする上でつまずく点について現状を把握した上で、それに対する具体的な支援ができるようになりたい／教材理解も必要／授業のことだけではなく、学級経営の方法など細かいことも知っていききたい」「学年別の指導内容、方法などを身につけたい／教材研究を深めたい」「児童との向き合い方は実習を重ねるにつれ教師として私が何をすべきか分かるようになってきたように思う／しかし授業の場面で児童の思考をもっと深める為に各教科についての知識が必要だと思った／今は採用試験に向け、今のモチベーションを保つことが大切だと思う」「国語の専門性を高める／教材集め／教材研究」「授業をやる立場、また学ぶ子どもの目線にも立ち各教科毎の特徴を押さえることや教職に携わる身になるとして必要とされる知識を身につけたい」「教養・知識の引き出しを増やす／常にアンテナを張り、様々な分野の情報を得る／本を読む／学習指導要領を理解する／専門科目を勉強する」「授業を充実する為の引き出しを増やしたい／実習は一人きりではとても大変でクラスで、学年で、実習生全体で支え合っているが、中には人間関係で悩んでしまったりストレスを他の人に八つ当たりして周囲の雰囲気悪くする人もいた／服装や化粧についても不相応な人がいて他の実習生の指摘も受れない人もいた／同じ実習生としてとても情けなかった／附小の先生方にとっても迷惑を掛けてしまったと思う」「現場での実践感覚」「一般常識」「応用実習を終えて、沢山の事を考えさせられた／これから私は本当に教師になって良いのか、なるべきなのかなど、答えを出すのが課題だと思う」「自己改革」

「教科の特色について理解を深める為に大学授業だけでなく、本を読んだり情報を知っておかなければいけない／専門分野を深めることが必要だと感じた／教職に向けてはもっと様々な先生や授業を見て実践にふれ、実践から感じたり学んだりしたことを深めていかなければと思った」であった。

#### 2) - (iii) 学生からの改善要望及びそれへの対応策・検討課題は何か？

##### ○より実践的な講義や演習

幼稚園実習と同様に、指導案の書き方・教材研究などを含むより実践的な科目、附属小学校との日常的な連携への要望が高かった。

具体的には、「もっと実践的なことを取り入れた活動を増やして欲しい／実際に教育に関わっている人の話を聞く機会をもっとあるといい」「指導案作りや各教科の学習、研究機会を増やして欲しい」「少人数のグループなどで教材研究に取り組める授業が欲しい」「内容では大学での学習に加え各学校に出かけて見学する、あるいはビデオを見るなど子ども達の姿を思い浮かべてできるようにしたい」「理論を学ぶことは実践することにおいて重要ではあるが、教育者になりたい者とするれば、もっと小学校の実際に合わせた学びを大学で提供して欲しい／実習学年は3年で充分だが、講義の内容をもう少し改善してほしい／附属学校があるにも関わらず大学の授業で附属を利用する機会が少ないと思う／より実践的な教育を行うのであれば附小を中心とした研究・授業を構築する必要があるのではないか／少なくとも私は今教育現場に求められているのは実践力のある人だと考えるので大学に対し切望する

（もっと具体的に言えば附小で使っている教科書を用いて教科書の背後にある教育的意図、意義について読み解いていく科目がいる／そうすることによって、クリアで高い実習ができると思う）」「理論ばかりではなく、実践的なことを取り入れた授業があれば実習に活かしやすいと思う」「指導案の書き方の詳しい説明があまりない」「教員採用試験に向けた講義を開設してほしい」（基礎実習アンケート）、「小学校教員免許状取得に必修の各教科教育科目の内容の改善（教科による）例えば指導案の書き方、その教科で〇〇が大切とされる理由」「指導案の意義、目的、書き方について」「研究授業後の研究会の練習や進め方など（会議力をつける）」「学校の教員目指して入学してくる学生が多いと思われるので、実践的な科目を増やしてほしい」「教科教育では実際の教材を扱って授業を観察するなど（算数学習指導論は大変良い科目の一つだと思う）普段から附属校との連携を踏まえて科目を設置してほしい／また発達障害児や気になる子が実際にはどのように学校生活を送っているのかを具体的に知ることができれば尚良

い」「評価や教育の歴史を知ること必要だとは思いますが、机上だけの勉強ではいけないと思う／実際に教材研究をしてみたり、授業をすることで多くの人とアイデアを共有していきたい／また学級経営に関する科目も新設してほしい／学級が落ちついていないと授業も成立しないと思う」「内容的にも授業実践的なことを扱って欲しい」「小学校で教える1つ1つの科目についてもっと実践的に勉強することができる機会があっ



たら良かった」(応用実習アンケート)であった。

### ○学科カリキュラムの配当学年の調整

実践的な科目を1～2年次に配当したり、教科教育法の科目を3年前期に揃えることへの要望がみられた。

具体的には、「1年生の頃からもう少し教科教育を入れるべき(週10時間なんてありえない)」「中途半端な授業では子ども達に申し訳ない/カリキュラムが重なって教科の授業に出られないといったこともあるので、授業数が多少増えても授業をしてもらいたい/特に1年前期の金曜全休は無くした方がよいと思う」「指導法関連の科目は3年前期にないと9月の実習に活かすことができない」「1・2年に実践的、3年に実践的でない科目を」「3年は5限の必修が多くて困ります」「全教科の指導案の書き方など2年生くらいで学びたい(基礎実習アンケート)」「～指導論は3年前期までにあった方がよい」「実習前に指導論を行っておきたかった/授業の設計や分析も受講しやすくしてもらいたい」「教科教育の講義を3年に集中させてほしい」(応用実習アンケート)であった。

### ○地域学との関わり

『『地域学総説』『地域学入門』のつまらなさ、充実感の無さは異常/すぐにでも止めて欲しい』という声もあった。

### ○やる気のない実習生への対応

やる気のない学生への対応について、「やる気のない人は実習に行くべきでない/実習先の先生は本当に良くして下さるのに申し訳ない/実習前に担任と面談をするなどして、対策をしていただきたい」「やる気のない学生は実習に行かせないで下さい」「実習はチームでの協力が多く/それなのに協力できない人も多/なぜ大学は教職に明らかに向かない人に単位を与えるのか」「免許更新制度も始まることだし、本当に教職に就きたいと思っている人だけが実習に行けるように面談などを実施した方がよいと思う」「一クラスに実習生が3人配属され、チームとして行動を共にすることが多いので、本気で教師を目指していない人、日々の講義の姿勢などで明らかに実習へのふさわしい態度が見られない場合は実習へ行くかどうか大学側に検討していただきたい/面談も行うなどして欲しい」(基礎実習アンケート)、「一番気になったのは本気で教師を目指す実習生とそうでない実習生の温度差/一人一人きちんと目的意識を持って一生懸命取り組めるよう面接を行うか、本当に教師を目指すのかなどを考慮し、学年団編成をしてほしい」「実習へ行く前に中途半端な気持ちで行かないように指導すること」(応用実習アンケート)という声があった。

### ○実習に関して

実習に関して、「担当学年をもう少し早い段階で知らせてほしい」「前半・後半で同じ学年・クラスの方が実態をある程度掴めた上で応用に臨める/後半新しいクラスでいきなり授業は難しい」「出身校に実習へ行きたかった」(基礎実習アンケート)、「配当学年については現行の通り3年次で行くのがベストだと思う」「秋に予定されている副免実習中の授業を欠席扱いにしないでほしい/大学側が実習生に対して非協力的に感じる」(応用実習アンケート)という声もあった。

### ○大学の施設・設備の整備

大学の施設・設備に関して、「9月実習中、大学の図書館が毎日閉まっていてとても困った/教材研究をするのに図書館は必要不可欠です/休み期間中に図書館を利用出来るようお願いしたい/また附属小学校から帰るのが6時を過ぎる人が多いので閉館時間も考えてほしい」「9月に大学図書館を17時で閉館しないでほしい/土日もあけてほしい」「実習中に18時以降の大学教室の十分な確保(授業準備をする場所・時間が全然なかったため)」「実習中、自由に使える部屋がほしい」(応用実習アンケート)という声もあった。

⇒小学校を主免許状とする学生は、幼稚園・中学校というよりは特別支援学校を副免許状として希望する者が多い(基礎実習アンケート、設問I)。従って、「特別支援学校実習(2年次)→小学校実習(3年次)[→幼稚園ないし中学校実習(副免3年次秋)]」の流れが基本ルートであると推定できる。  
⇒カリキュラムに関しては、学級担任制で全教科・領域を担当する小学校教員の任務を踏まえて、各科目を関連づけ、内容をより実践的にし、学年配当を再調整すべきであろう。児童教育論や小学校学級経営論などの科目も必要である。  
⇒附属小学校とのより日常的な連携(授業参観の日常化、附属小学校スタッフによる学科カリキュラムの一部担当やオリエンテーションの回数を増やすこと等)を図るべきであろう。  
⇒地域学部や地域教育学科で行われている小学校教員の養成である以上、常に地域学や地域教育学とのかかわりを意識する必要がある。授業実践にとどめず学校全体の運営や地域連携なども体験させたい。「会議力」は地域教育ゼミ・総合演習などの演習科目で身につけることを意図すべきであろう。  
⇒以上の内、特に教科教育法に関する科目の内容充実や学年配当に関しては学習科学講座スタッフを中心に進める。  
⇒教育学・心理学などの教職科目に関しては、発達科学講座の担当スタッフで検討を進める。なお、教員採用試験に向けた講座の開設は2008年度後期より附属生涯教育総合センターの特任スタッフによってすでに開始されている。また、他学科・他学部と混在して受講させてきた教育学科目に関して、2009年度入学の地域教育学科生からは学科生専用の教育学科目を1年次前期に開講する予定である。さらには、学校経営・学級経営の科目開設も検討されてよい。  
⇒やる気のない学生への対応の仕組み、他科目開講中に出かける実習(基礎実習&秋の副免実習)の取り扱い、9月実習中の図書館利用の保障などは、全学レベル(全学の教育実習委員会など)で検討が行われるべきであろう。

## 3)「2年次実施方式・特別支援学校」

### 3) - (i) 学科カリキュラムは実習に活かされているのか?

「活かした」「ある程度活かした」が合わせて50%以上であったのは、「特別支援教育に関する科目(86%)」「教育実習の事前指導(84%)」「カリキュラム内で行われる学校見学や交流体験など(67%)」「少人数でのゼミナール(67%)」「小学

校教育に関する科目 (51%)」「カリキュラム外で行われる子ども会等のボランティア活動など (51%)」「幼稚園教育に関する科目 (50%)」であった。

「あまり活かせなかった」「活かせなかった」が50%以上であったのは、「中学校 (高校) 教育に関する科目 (83%)」「教職に関する科目 (75%)」「保育士資格に関する科目 (67%)」「地域学・地域教育学に関する科目 (66%)」であった。

大きくくりに言えば、(1) 特別支援教育に関する科目、(2) 実習の事前指導、(3) カリキュラム内外での見学や体験・活動など、(4) 少人数ゼミ、(5) 小学校・幼稚園に関する科目は評価が高かった。なお、知的障害特別支援学校の場合に発達的には重なるの多い幼児期について、幼稚園教育とは異なり保育士資格に関する科目の評価が低かったことは、該当科目を履修していない者が多かったと推測される。

### 3) - (ii) 2年次実施方式の眼目は達成されているのか?

「特別支援学校アンケート」の「設問4-2」では、課題への気付き、不十分点を修正する力の育成、実習以降の大学での学習への意欲や目的意識の向上などがうかがえる。

具体的には、「授業の作り方」「個別支援の在り方」「正しい知識の理解」「医学的な面からまた、支援の方法もたくさん学ぶ必要がある」「今回の実習で自分にまだまだ知識がないと思ったのもっと障害について学ぶこと」「日常での積極性と大学で知識を深めること」「自分から行動すること。子どもの姿に合わせた支援の方法を考えること/障害についての知識を増やすこと」「知識不足と準備に対する意識の甘さ、現場の意識を持って何か出来ることを探す」「先生になるにあたって知識が少なすぎると感じた/何か聞かれたときにすぐに答えられないと生徒達から頼られる先生にはなれない/教科だけでなく、パソコンや基本的な知識、テレビなどの話題にも目を向けていこうと思った」「慣れるまで物事が上手く進まないのが初めての作業や不慣れなことでも出来るようになる」「自信を持ちすぎない」「失敗を恐れない」「今後具体的に何を勉強したいのか」であった。

2年生で実施することの効果については、「基礎実習アンケート」(小学校)の設問3-10「基礎実習の前に出かけた介護等体験、保育実習、特別支援学校実習など」で確認することができる(すでに述べたように、小学校実習に出かけた者の多くは2年次に特別支援学校実習に出かけていた)。

まずは「活かした」「ある程度活かした」が70%にも達していた。次に自由記述のa及びbを再録すると、a-「気持ちの持ち様、子どもを見ること、支援を考えることなどに役立った」「クラスとしてまた個人として子どもをとらえる大切さが分かった/指導案の書き方も熱心に指導していただいた」「実習の雰囲気を感じ、生活習慣の見直しなど」「指導案の書き方、実習の心得、子どもを見る視点」「指導案の作成や日誌など、一度経験していたのでスムーズに出来た」「社会人としての態度」「特別支援実習で指導案に触れていたのが小学校でも指導案を書き易かった」「特別支援の方が厳しかった/基礎実習は楽しかった」、b-「子どもとの関わり方など違う対応もあるが経

験していることが自信になった」「実習に向かう姿勢など」「指導案の書き方など」「どのように児童と距離を縮めていけばよいかという点で経験が活かされた」というものであり、教育の原点としての特別支援教育の意義がうかがえる。

### 3) - (iii) 学生からの改善要望及びそれへの対応策・検討課題は何か?

「特別支援学校アンケート」の「設問IV」への自由記述における改善要望は以下のようであった。

具体的には、「もう少し授業に関する科目を増やしてほしい/学校見学を増やして欲しい」「2年での実習前に生徒と知り合うカリキュラムがあってもいいと思った」「私は授業をするとき授業のイメージがわからず困り、先輩方の研究授業を見に行かなかったことをすごく後悔したので研究授業など授業を見たり実際にしたりする授業があってもよいと思う」「オリエンテーションで、もっと詳しく実習について教えてほしい」とうものであった。

特別支援教育に特定されない記述としては、「忙しい時期とそうでない時の差が激しい/2年前期は保育コースが忙しく、3年では小学校を取る人が忙しい感じなので何年でもまんべんなく授業が取れるようにしてほしい」「どうして3年次の実習が5月と9月に分かれているのか意味が分からない」「どうして実習する場所は附属でないとダメなのか」であった。

⇒「特別支援学校実習(2年次)→小学校実習(3年次)」がルート①である。2年次らしい「形成実習」の共同した開発が求められている。学生の卒業まで実習後も関わる継続ボランティアも工夫の一つである。一方で「保育実習(2年次)→幼稚園実習(3年次)→特別支援学校実習(4年次)」がルート②であり、こちらは「完成実習」の色合いが強い。

⇒特別支援教育に関するカリキュラムについては、実習に活かされたという高い評価を学生から得ていた。

⇒附属特別支援学校との連携は、初回2006年度2年次実習の「準備不足の反省」を踏まえて、実習前の2年次前期の講義において①附属校の実践をまとめた本をテキストにする、②附属校スタッフを特別講師として依頼する、③指導案を含めて附属校の実践づくりの過程をビデオで見る、④交流や見学の機会を置く等の工夫を積み上げてきている。

⇒地域学部や地域教育学科で行われている特別支援学校教員の養成である以上、常に地域学や地域教育学とのかかわりを意識する必要がある。学校全体の運営や地域連携も体験させたい。また、演習科目の地域教育ゼミⅠ(2年次前期)→実習一ゼミⅡ(同後期)の在り方は今後さらに検討したい。

⇒特別支援教育関連のスタッフで相談した結果、2009年度においては、障害特性を扱っている「知的障害児等の心理」を実習前の2年次前期に早めるとともに、自閉症の特性と支援の在り方に関して実践的な講義をしていただくために一部担当の現場講師複数名を招く予定である。

《謝辞》調査の集計作業及び作図は、学科事務員の田中真奈実さんにお世話になった。記して感謝申し上げる。

## 地域教育学科3年生の基礎実習に関するアンケート

2008年6月 地域教育学科長・渡部

### ○ 調査の趣旨

地域教育学科では、5月に実施された教育実習「基礎実習」に関してアンケートを行い、学科カリキュラムの見直しや附属校園との連携づくりに活かしたいと思えます。

### ○ 調査の対象など

対象：地域教育学科3年生全員／期間：6月／方法：「地域教育ゼミⅢ」において実施

### Ⅰ：免許・資格に関する基本情報

問1. 貴方が現時点で取得を予定している免許・資格に全て○を付けなさい。

- ・幼稚園教諭 ・小学校教諭 ・中学校教諭(教科) ( ) ・高校教諭(教科) ( )  
・特別支援学校[養護学校]教諭 ・保育士 (コースに属して、国家試験の受験) ・なし

### Ⅱ：基礎実習への参加状況

問2. この5月に貴方が参加した「基礎実習」に○を付けなさい。

- ・幼稚園実習 ・小学校実習 ・中学校実習 (教科) ( )  
・参加していない ⇒ この項を選んだ人は、問5に進んでください。

### Ⅲ：基礎実習と大学カリキュラムとの関連

問3. 地域教育学科のカリキュラムは「サンドイッチ方式」、すなわち「大学での学習A—基礎実習(3年5月)—大学での学習B—応用実習(3年9月)—大学での学習C」という仕組みになっています。基礎実習を終えた時点において、事前の「大学での学習A」は基礎実習にどの程度活かされたか。区分ごとに該当する選択肢を選び、活かされた科目やどのように活かされたか等を具体的に記入しなさい。

- 3-1 教職に関する科目(「人間と教育」、教育学、心理学など)  
(a)活かされた (b)ある程度活かせた (c)あまり活かせなかった (d)活かせなかった  
(具体的に) ( )
- 3-2 幼稚園教育に関する科目  
(a)活かされた (b)ある程度活かせた (c)あまり活かせなかった (d)活かせなかった  
(具体的に) ( )
- 3-3 小学校教育に関する科目  
(a)活かされた (b)ある程度活かせた (c)あまり活かせなかった (d)活かせなかった  
(具体的に) ( )
- 3-4 中学校(高校)教育に関する科目  
(a)活かされた (b)ある程度活かせた (c)あまり活かせなかった (d)活かせなかった  
(具体的に) ( )
- 3-5 特別支援教育に関する科目  
(a)活かされた (b)ある程度活かせた (c)あまり活かせなかった (d)活かせなかった  
(具体的に) ( )
- 3-6 保育士資格に関する科目  
(a)活かされた (b)ある程度活かせた (c)あまり活かせなかった (d)活かせなかった  
(具体的に) ( )

- 3-7 地域学・地域教育学に関する科目(地域教育入門、地域教育計画論など)  
(a)活かされた (b)ある程度活かせた (c)あまり活かせなかった (d)活かせなかった  
(具体的に) ( )
- 3-8 少人数でのゼミナール(大学入門ゼミ、総合演習、地域教育ゼミなど)  
(a)活かされた (b)ある程度活かせた (c)あまり活かせなかった (d)活かせなかった  
(具体的に) ( )
- 3-9 教育実習の事前指導(「教育実践の基礎」や実習オリエンテーションなど)  
(a)活かされた (b)ある程度活かせた (c)あまり活かせなかった (d)活かせなかった  
(具体的に) ( )
- 3-10 基礎実習の前に出かけた介護等体験、保育実習、特別支援学校実習など  
(a)活かされた (b)ある程度活かせた (c)あまり活かせなかった (d)活かせなかった  
(具体的に) ( )
- 3-11 カリキュラム外で行われる子ども会等のボランティア活動など  
(a)活かされた (b)ある程度活かせた (c)あまり活かせなかった (d)活かせなかった  
(具体的に) ( )
- 問4. 基礎実習の目的は、実習前の大学での学習事項を実際に試し、応用実習に向けた自らの課題、今後の学習課題などを掴むことにあります。  
4-1 基礎実習の率直な感想を述べなさい。  
(a)充実していた (b)ある程度充実していた (c)あまり充実していなかった  
(d)充実していなかった  
(自由記述)
- 4-2 今後の大学での学習や応用実習に向けた「貴方の課題」は何ですか。  
(自由記述)

### Ⅳ：改善課題や要望

問5. 大学のカリキュラム(教育実習などを含む)に関して、改善提案や要望があれば述べてください(配当学年の見直し、内容の充実、新設して欲しい科目など)。  
(自由記述)

【ご協力、有難うございました。】\*ゼミ担当の先生に提出するか、4階411部屋(渡部)前の回収用「郵便受け」に投函して下さい=締切「6月20日(金)」。

## 地域教育学科3年生の応用実習に関するアンケート

2008年10月 地域教育学科長・渡部

### ○ 調査の趣旨

前期に5月の「基礎実習」に関してアンケートを行いました。今回は9月に実施された「応用実習」に関するアンケートです。教育実習や学科カリキュラムの見直し、附属校園との連携づくりに活かしたいと思います。

### ○ 調査の対象など

対象：地域教育学科3年生全員／期間：10月／方法：「地域教育福祉論」で実施

### Ⅰ：免許・資格に関する基本情報

問1. 貴方が現時点で取得を予定している免許・資格に全て○を付けなさい。

・幼稚園教諭 ・小学校教諭 ・中学校教諭(教科) ( ) ・高校教諭(教科) ( )  
・特別支援学校[養護学校]教諭 ・保育士(コースに属して、国家試験の受験) ・なし

### Ⅱ：応用実習への参加状況

問2. この9月に貴方が参加した「応用実習」に○を付けなさい。

・幼稚園実習 ・小学校実習 ・中学校実習(教科) ( )  
・参加していない ⇒ この項を選んだ人は、問5に進んでください。

### Ⅲ：応用実習と大学カリキュラムとの関連

地域教育学科のカリキュラムは「サンドイッチ方式」、すなわち「大学での学習A—基礎実習(3年5月)—大学での学習B—応用実習(3年9月)—大学での学習C」という仕組みになっています。

問3. 「大学での学習B=3年生前期に受講した科目での学習」は応用実習にどの程度活かされましたか。区分ごとに該当する選択肢を選び、活かした科目やどのように活かされたかを具体的に記入しなさい。受講していない科目は記入しないで結構です。

問3-1 教職に関する科目⇒(3年前期の受講科目名： )

(a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった  
(具体的に)

問3-2 幼稚園教育に関する科目⇒(3年前期の受講科目名： )

(a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった  
(具体的に)

問3-3 小学校教育に関する科目⇒(3年前期の受講科目名： )

(a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった  
(具体的に)

問3-4 中学校(高校)教育に関する科目⇒(3年前期の受講科目名： )

(a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった  
(具体的に)

問3-5 特別支援教育に関する科目⇒(3年前期の受講科目名： )

(a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった  
(具体的に)

問3-6 保育士資格に関する科目⇒(3年前期の受講科目名： )

(a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった  
(具体的に)

問3-7 地域学・地域教育学に関する科目⇒(3年前期の受講科目名： )  
(a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった  
(具体的に)

問3-8 地域教育ゼミ⇒(3年前期の受講科目名： )

(a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった  
(具体的に)

問3-9 教育実習の事前指導(「教育実践の基礎」や実習オリエンテーションなど)

(a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった  
(具体的に)

問4. 応用実習の目的は、基礎実習で掘んだ自らの実践課題を解決したり、基礎～応用実習の間に進めた学習の成果を確かめることにあります。

問4-1 応用実習の率直な感想を述べなさい。

(a)充実していた (b)ある程度充実していた (c)あまり充実していなかった  
(d)充実していなかった  
(自由記述)

問4-2 基礎実習と応用実習とはどのように繋がりましたか。貴方自身において、特に「応用実習に向けて準備したこと」「基礎⇒応用へと何か発展・深化したこと」があれば具体的に述べて下さい。

(自由記述)

問4-3 実習を終えて、基礎実習・応用実習の在り方および両者の繋がりについて、良かった点や今後さらに改善を要する点、改善への提案などがあれば具体的に述べて下さい。

(自由記述)

問4-4 今後の大学での「学習C」および教職に向けた「貴方の課題」は何ですか。

(自由記述)

### Ⅳ：改善課題や要望

問5. 大学のカリキュラム(教育実習などを含む)に関して、改善提案や要望があれば述べて下さい(配当年の見直し、内容の充実、新設して欲しい科目など)。

(自由記述)

【ご協力、有難うございました。】\*4階411部屋(渡部)前の回収用「郵便受け」に投函して下さい = 締切「11月4日(火)」。

## 地域教育学科2年生の特別支援学校実習に関するアンケート

2008年9月 地域教育学科長・渡部

### ○ 調査の趣旨

地域教育学科では、9月に実施された特別支援学校実習に関してアンケートを行い、学科カリキュラムの見直しや附属校園との連携づくりに活かしたいと思っています。

### ○ 調査の対象など

対象：実習受講者17名全員／期間：9月30日(火)までに411部屋ポストへ投函。

### I：免許・資格に関する基本情報

問1. 貴方が現時点で取得を予定している免許・資格に全て○を付けなさい。

- ・幼稚園教諭 ・小学校教諭 ・中学校教諭(教科)
- ・高校教諭(教科)
- ・特別支援学校[養護学校]教諭 ・保育士(コースに属して、国家試験の受験) ・なし

### II：基礎実習への参加状況

問2. 3年次5月に貴方が予定している「基礎実習」(2週間)に○を付けなさい。

- ・幼稚園実習 ・小学校実習 ・中学校実習(教科)

### III：特別支援学校実習と大学カリキュラムとの関連

問3. 地域教育学科のカリキュラムは「サンドイッチ方式」、すなわち「大学での学習A—特別支援学校実習(2年9月)—大学での学習B」という仕組みになっています。

特別支援学校実習を終えた時点において、事前の「大学での学習A」は教育実習にどの程度活かされましたか。区分ごとに該当する選択肢を選び、活かした科目やどのように活かしたか等を具体的に記入しなさい。

3-1 教職に関する科目(「人間と教育」、教育学、心理学など)

- (a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった
- (具体的に)

3-2 幼稚園教育に関する科目

- (a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった
- (具体的に)

3-3 小学校教育に関する科目

- (a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった
- (具体的に)

3-4 中学校(高校)教育に関する科目

- (a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった
- (具体的に)

3-5 特別支援教育に関する科目

- (a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった
- (渡部関係)
- (寺川関係)
- (小枝関係)

3-6 保育士資格に関する科目

- (a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった
- (具体的に)

3-7 地域学・地域教育学に関する科目(地域教育学入門、地域教育計画論など)

- (a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった
- (具体的に)

3-8 少人数でのゼミナール(大学入門ゼミ、総合演習、地域教育ゼミなど)

- (a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった
- (具体的に)

3-9 教育実習の事前指導(実習オリエンテーションなど)

- (a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった
- (具体的に)

3-10 カリキュラム内で行われる学校見学や交流体験など

- (a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった
- (具体的に)

3-11 カリキュラム外で行われる子ども会等のボランティア活動など

- (a)活かした (b)ある程度活かした (c)あまり活かさなかった (d)活かさなかった
- (具体的に)

問4. 教育実習の目的は、実習前の大学での学習事項を実際に試し、教員になるに向けての自らの課題や大学での今後の学習課題などを掴むことにあります。

4-1 特別支援学校実習の率直な感想を述べなさい。

- (a)充実していた (b)ある程度充実していた (c)あまり充実していなかった
- (d)充実していなかった (自由記述)

4-2 今後の大学での学習や将来に向けた「貴方の課題」は何ですか。

(自由記述)

### IV：改善課題や要望

問5. 大学のカリキュラムや教育実習に関して、改善提案や要望があれば述べなさい(配当学年の見直し、内容の充実、科目間のつながり、新設して欲しい科目など)。

(自由記述)

【ご協力、有難うございました。】\*地域学部4階411部屋(渡部)前の回収用「郵便受け」に投函して下さい=締切「9月30日(火)」。

（文責・渡部）

日時：2008 年 8 月 7 日（木）14～15 時

場所：地域学部 436 部屋

出席：附属幼稚園 1 名、小学校 2 名、特別支援学校 1 名、  
地域学部教員 9 名（校長 2 名を含む）、生涯教育総合センター 2 名、地域学部教務係職員 3 名、全学教育支援課職員 1 名、学科事務員 1 名

テーマ：教育実習（基礎実習）にかかわる連携づくり

素材：3 年生実習アンケートの結果

概要：1. 学科長から懇談会の趣旨とアンケートの概要  
2. 附属校園からの発言  
3. 意見交換

改善課題として見えてきた事項：（渡部によるメモ）

### 1) 「流れ」づくり

- ・ 「サンドイッチ方式」（大学での学習 A—基礎実習—大学での学習 B—応用実習—大学での学習 C）と言いながら、学部のカリキュラムの流れが創れていない。従って、教育実習も上手く流れに組み込まれておらず、附属校園にも伝わっていない。
- ・ 特別支援学校の場合は、「大学での学習（前半）—教育実習—大学での学び（後半）」となる。
- ・ 学科内でのカリキュラムづくりの責任の所在が不明確。

### ⇒解決策（私案）

- ・ 幼稚園教諭免許状に関しては、「保育幼児教育分野」＋「幼稚園教育科目」のスタッフが中心になって、保育士養成と関連づけながら構想を練る。
- ・ 小学校教諭免許状に関しては、「学習科学講座」が責任をもって、特に教科教育関連のカリキュラムの配列や採らせ方の構想を練る。
- ・ 3 年生前期の科目において、もっと附属校園と連携した講義の工夫を行う。例えば、附属校園の先生をもっと特別講師で招く。基礎実習に出かけて参観する。附属校園の実践（本やビデオ）を大学でも教材にする。
- ・ （特別支援学校教諭免許状に関しては特別支援教育分野のスタッフが責任）

### 2) 「完成実習」ではない「形成実習」への転換と創造

- ・ 幼稚園では「失敗しても良い」という構えで基礎実習生を後押ししている。基礎が終わった段階で、応用の配属クラス（年齢）を予告し、幼稚園に事前体験に来れるようにも工夫している。
- ・ 教育実習を教員養成の総仕上げ＝完成形態（完成実習）と捉えず、上記の流れの中の一環に位置づけて、形成を促す実習の役割や内容を見直していく（例えば、

自らの学びの課題を再認識させる等）。4 年間で育てる、卒業後にも現場で育つ・・・と言った長い目で見て欲しいという発言もあり。

### ⇒解決策（私案）

- ・ 基礎実習と応用実習の狙いや役割が違うことを前提に、「基礎実習と応用実習の繋ぎ方」を検討する。
- ・ 目的養成ではない「開放制（一般）養成＝地域学部・地域教育学科」としてのカリキュラムにおける実習の在り方を探る。今後の大学評価という視点では、附属校園の評価も「開放制養成の大学に附属した校園」として評価がなされることになる。「目的養成時代の幻影」を追ってはならない。
- ・ 総仕上げ評価は、H22 年度入学者から義務化される「教育実践演習」（4 年次）に委ねる。入学時から卒業時までの変容を「ポートフォリオ」等に記録して振り返らせる。「教育実践演習」を鳥大としてどう創って行くかという全学的議論（全学の教育実習委員会など）に附属校園の参加を求める必要がある。

### 3) 実習を受ける要件

- ・ 実習を受ける要件＝最低修得単位数などが不明である。
- ・ 不合格になった者の再履修の判断基準が不明確。
- ・ 意欲のない者や、基礎実習での態度などがよくなかった者の扱い？

### ⇒解決策（私案）

- ・ 要件の明確化を学部や全学の委員会で検討すべき。

### 4) 全体の仕組みやシステム・責任体制の明確化

- ・ 附属校園からのみでなく学科教員からも、大学全体の仕組みが見えない。
- ・ 附属校園の取り組みや日程表を、全学の理事や役員に届けてはどうか。

### ⇒解決策（私案）

- ・ 事務サイドの窓口の明確化や仕組みの図表化を毎年度初めに行い、附属校園や大学教員に配布する。
- ・ 全学の組織・委員会である附属学校部や教育実習委員会の動きや責任・権限の所在を、附属校園や大学教員にもっと知らせる。
- ・ 附属中学校に関しては、地域教育学科ではなく、他学科・他学部との関係が大きい。地域教育学科で行えることと、そうでないことがあり、学科独自の懇談会やアンケートの取り組みには当然限界もある。学部や全学の委員会などでも、他学科・他学部を巻き込む形で進めて欲しい。